女子青年界第十三巻第十一號（每月一回一日發行）
大正五年十二月一日發行　大正五年十一月廿八日印刷納本
明治卅七年五月七日第三種郵便物認可

女子青年界

第十三巻
十二月號

要目

女子青年界第十三巻第十一號

目次

YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume XIII December, 1916 Number 11.

會告

過般東京市協同傳道の際市内諸新聞紙上に基督教の梗概を連日掲載せし結果多數の求道者諸氏より該傳道委員に對し種々問合又は質問等有之候趣につき、我が日本基督教女子青年會本部は今回其の求道者諸氏中の若き婦人方へ信仰の栞且は降誕節の祝意を表し「女子青年界」を進呈することに決し即ち十二月號を一部づゝ贈呈仕候。願くはこれによりて基督の救を新讀者諸姉に紹介する一助とも相成候へば本懷の至りに存候。謹んで上よりの祐助と祝福を祈り上げ候。敬白

日本基督教女子青年會本部

東京市神田區北神保町十四番地

各組生徒募集

左の通り時間を改正し各組の教授をいたします。志望の方は至急に御申込み下さるやうに願ひます。詳細のことは當事務所について御聞合せを願ひます。

英語の組
晝の組 月、水、金曜午後 自三時半 至四時半
夜の組 火、水曜、 自七時半 至八時半
金曜 自六時

佛語の組
木曜午後 自八時 至九時

體操の組
火、木曜午後 自四時 至五時

生花の組
火曜午後 自一時 至五時

簿記の組
月、火、水、木、金曜午後 自四時半 至五時半

料理の組
水曜日午後 自一時半

速記の組
月、金、午後 自七時十五分

大正五年十二月

神田區北神保町十四番地
東京基督教女子青年會
【電話本局五九八番】

松本雲舟譯
■全譯 **天路歷程**
定價壹圓五拾錢 郵稅拾貳錢

松本雲舟譯
■**恩寵溢るるの記**
定價壹圓 郵稅八錢

松本雲舟譯
■小說 **聖戰**
定價壹圓拾錢 郵稅八錢

五來素川譯
■小說 **未だ見ぬ親**
定價壹圓 郵稅八錢

林靜太譯
■**婦人の典型**
定價壹圓 郵稅八錢

大正六年日記
■**吾家の歷史**
定價五拾錢 郵稅八錢

藤川淡水著
■**讃美歌お伽噺**
定價四拾錢 郵稅六錢

野口精子作
■歌集 **夕ばえ**
定價七拾錢 郵稅六錢

小西增太郎著
■聖地 **パレスチナ**
定價壹圓 郵稅八錢

松本雲舟譯
■**星をめあてに**
近刊

マクネア遺稿
■**讃美歌物語**
近刊

林靜太譯
■**婦人の精髓**
近刊

發兌 東京尾張町 京橋 **警醒社書店** 振替東京五五三番

外人嗜好編物研究會

場所　九段坂下公園前（停留場より約一丁）

■編物に趣味を有する婦人方の會
■家庭製作品を賣つて利益の分配

本會は帝國婦人産業協會東京支部として輸出編物の製作を依頼せられて居りますのみならず帝國ホテルとも間接の關係を有し漫遊客等より時折特別の御誂もあり且つ大公使館員夫人令嬢等の御依頼品を會員で製作し其利益を頒つのであります、ですから有利な家庭産業であります、規則御入用の方は郵券二錢封入申込下さい。

◎常盤唱歌集演藝集第一、第二、第三
孰れも定價金四拾錢、郵税金六錢

◎（舊約全書）一年研究　定價金四拾錢　郵税金六錢

◎耶蘇一代記　定價金貳拾錢　郵税金四錢

◎聖書修身談　定價金貳拾五錢　郵税金四錢

◎日曜學校五十教課　定價金八錢　郵税金貳錢

◎文字の話　定價金拾貳錢　郵税金貳錢

◎十誡の話　定價金參拾錢　郵税金四錢

右の外日曜學校教師諸君の用ゐられて有益なる雜誌も亦生徒諸子に與ふる面白きカードなど澤山取揃へこれ有候間目錄御入用之御方へは御申越次第直に進呈致すべく候

横濱山手三十七番　**常盤社**

SUNDAY SCHOOL SUPPLIES.

Peloubet's Select Notes on the International S. S. Lessons	2.50–.12
Gist of the lessons, by Torrey	.55–.06
Tarbell's Teachers' Guide.	2.50–.12
The Lesson Handbook, by Meyer	.55–.06
Berean Leaf Cluster (Picture Rolls, Quarterly) Per Year,	10.00–.48
Berean Cards Per Year,	40–.08

萬國日曜學課(リーフレット)週刊十五組以上郵稅不要
一枚三厘、期刊雜誌萬國日曜學課一ヶ年四回發行

スザンナウエスレー傳、スペンサー女史 元良ヨネ子女史共著……………….25–.06
ハリス夫人傳、山鹿旗之進著……… 1.00–.08
七日間、美山豐子、田中夕風共譯…… 35–.06
歐米女子立身傳、根本正譯 ………… .40–.06
へれんけらー自叙傳我身の物語……50–.08
窪より、ミラー原著、伊藤宗輔譯……30–.06
みあしのあと、セルドン原著、安孫子貞次郎譯……………………………….55–.08
戰場の婦人、沖野、吉田共著………….20–.04
家庭清話、堀口翠巒著……………….30–.04
野百合、碧川企牧男著……………….25–.04
墨影、三浦泰一郎著………………….30–.04
怒るな働け、嘉悦孝子著…………….80–.08
巖の處女、ダヌンツイオ著、知達譯 1.10–.08
武藏野の一角に立ちて、別所梅之助著 ……………………… 1.10–.08
(縮刷)何處へ行く、松本雲舟譯……1.10–.08
一日一善、山本瀧之助著…………….65–.08
日々の力、根本正譯、…………ポッケット形紙貳拾五錢、布四拾錢、皮九拾錢
同 四六版紙參拾五錢、布五拾錢、皮壹圓
日々の基督、津金瀰村著………… 1.30–.08
靈交錄、フォスヂック原著、栗原基譯 ……………………….80–.08
耶蘇の人格、栗原基譯……………….60–.06
クリスマス對話集、小野兵衞著……35–.06

Gospel Story in Art, by John La Farge ……………… 8.25–.20
Life of Jesus of Nazareth, by Hale. ……………… 4.15 .16
Greater Men and Women of the Bible, by Hastings ……… 3.30–.12
Quiet Talks on Prayer, by Gordon ……………… 1.40–.08
Quiet Talks on Service, by Gordon ……………… 1.40–.08
Thirteen Appreciations, by Whyte ……………… 3.30–.08
Second Coming, by Kummer & James ……………… 1.10–.08
Loneliness of Christ, by Keadle .85–.06
Discipline of Prayer.(1916)……… .77–.06
Illustrated History of Music, by Lapper ……………… 4.15–.12
A B C of Cooking ……………… 1.10–.06
Songs for Quiet Hours, by Plante ……………… 1.10–.08
A French Woman's Notes on the War, by De Pratz ……………… 3.30–.12
Advice to a Wife, by Chavasse 55–.08
What a Young Girl ought to Know, Mrs. Wood-Allen ……………… 2.20–.12
Wha ta Young Woman ought to Know, Mrs. Wood-allen……… 2.20–.12

PERRY PICTURES sizes range from 5½ X 8 to 19 X 23, prices from 5 sen to Y 4, copies of the world famous paintings done in sepia and in black and white, appropriate for Christmas Gifts.

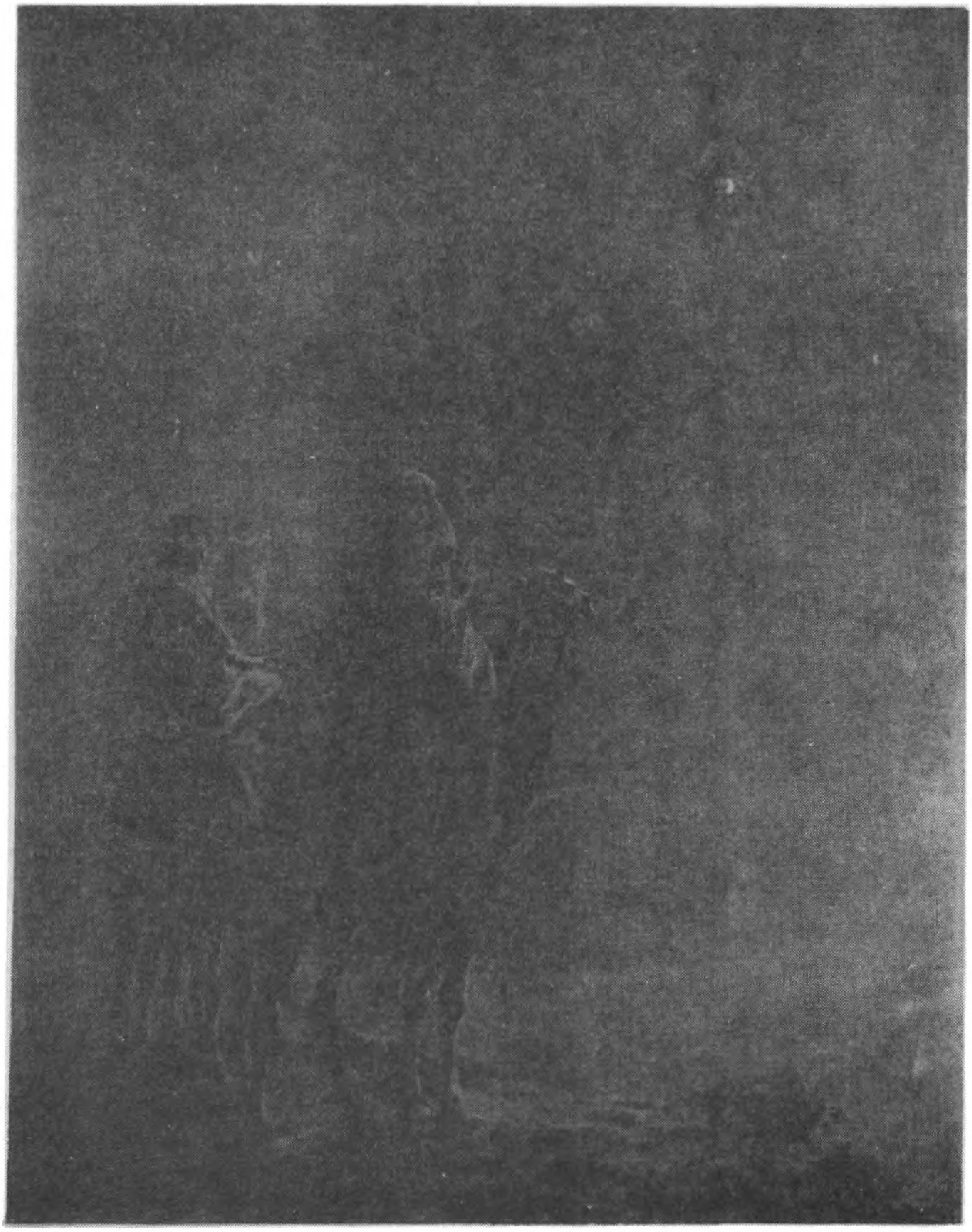
東京 教文館 銀座
(振替東京一一三五七) (電話京橋二二五二)

シスチン　マドンナ



ラフアエル作

三人の博士星を導者にて御子のあれましゝ所に到る



ウイリヤス　テラー筆

女子青年界

第十三巻第十一號

十二月號

大正五年十二月一日發行

ひとりの嬰兒われらのために生れたり、我儕はひとりの子をあたへられたり。
其の名は平和の君ととなへられん。
今よりのちとこしへに公平と正義をもて國を立て、これを保ちたまはん。

以賽亞九ノ六、七。

起よひかりを發て。なんぢの光きたり、エホバの榮光爾の上に照出たればなり。
もろ／＼の國は爾の光にゆき、もろ／＼の王はてり出る爾の光輝にゆかん。

以賽亞六〇ノ一、三。

彼は我儕の和なり。二者を已に聯ね一の新しき人に造りて和がしめ、又神と和がしむ。

以弗所二ノ十四—十六。

榮光神にあれ地には平安人には恩澤あれ。

路加二ノ十四。

會說

「朝日は昇りて世を照せり」

河合道子

最早共處此處で降誕祭の聖書暗誦や讃美歌の御稽古の時節が參りました。誰でも降誕祭と申せば讃美歌の第五拾九番をよく歌ふのであります。若し又讃美歌の事を少しも御存じない姉妹方があれば是非此歌を御習ひ下さい。譜は小學校で敎へる「螢の光」と同じですから誰にも容易く唱へます。私は其讃美歌の最初の句、即ち「朝日は昇りて世を照せり」と申す意味を少しく述べて、何故キリストの世に生れ給ひし事を祝ふかの意義を明かに致し度と思ひます

聖書に基督の事を光に譬へてあります。「其凡ての人を照らす光は世に來れり」(約一ノ九)「我は世の光なり」(約八ノ一二)「我は光にして世に來れり凡て我を信ずる者をして暗に居らざらしめん爲なり」(約十二ノ四六)等、此他にも種々光の譬がありますが。畢竟基督のお生れなされたと云ふ事は、丁度夜が明けて旭光が東天より全地を照す如き有樣であります。勿論昔より聖人賢者を光に譬へた例も屢々御座います。此等の人々は皆無學無智な輩や佞惡不德の世の中を僅かに照らして人類に其責任義務を知らしめ正直に立歸へらしめたのでありますが、只彼等を基督と比べますならば、彼等は暗夜の燈程に思惟されます。例へば支那の孔子は支那及日本の或部分を照らし、釋迦は印度を始め東洋の或部分を照らしソクラテスはギリシヤと其附近とを昔日照らしまし

たが、今日全世界に彼等の光が行き渡つて居るとは申されません。尚又東洋自身でさへ此等の大聖人に依り、古今を問はず、老幼男女貴賤貧富を問はず隈なく照されて居るとは誰も斷言は出來ますまい。然るに基督は東洋西洋を問はず全世界を感化し、又基督教が日を追て其勢力を盛ならしむるは、恰かも黎明に水平線上一點の紅色ありと見るが中に、次第次第に其光明を增し、愈々昇りて全地を照らす有樣ではありませんか。之を讃美歌五十九番に唱ふたのであります。或方々は若しキリストが太陽の如くであるならばキリストの現はした神樣は矢張り太陽であらうと反問さるゝ人もありませう。尤もの質問で聖書にも度々神を光と申してあります。「諸の光の父」とは基督教の禮拜する眞の神を申すのであります。之を譬へて見ると、宇宙には私共の地球を照らず太陽の外に、幾つも此樣な太陽が一々太陽系をなして居ると申します。其光明が如何であるか、其力の偉大なる程度が如何程であるか、到底人智で測度する事は出來ません。只地上に住む我々には地球を照らす此太陽の一つで充分で御座います。其太陽さへ到底全體殘る隈なく人間に理解るものではありません。是と同樣に神の偉大なる事、諸の光の父に在せば、私共には如何にしても察する事さへ六ケ敷のであります。それで神は斯くあらせられ給ふと神の性質一班を人々に分かる樣に基督が現はされた事が丁度地を照らす太陽の樣だと申すのであります。而も此基督の事が全部分かる人は決して一人も世界にはありません。然しながら基督の愛、犧牲、正義、清淨、權能、威嚴等の德性を見ては、神のそれを窺ふに餘りある事であります。

一體、基督が世を照らすといふのは何を意味致すのでありませう。是は太陽が暗黑を追ひやる如く、全ての罪惡を基督が追出し給ふといふ事が第一であります。世の中には罪惡はないと云ふ人は一人もありますまい。毎朝毎夕一葉の新聞紙を披いて見ても直に目に止まるのは、世間の罪惡であります。斯く

罪惡が顯著でなくとも、互の家庭に怖ろしき、苦しき、忌はしき事がないでせうか、勉學する學校に其朋輩間にも何の蟠りもないでせうか。隣り近所の交際、親類中或は親子夫婦骨肉の間にさへ他人にあかす事の出來ない悶着や悲劇が如何に世には多い事でありませう。まして各々の地位に關し、職務上に起る困難、多少の差こそあれ、必らず圓滿に行く所のみは御座いますまい。尤も世には何の苦痛も感ぜずに、空に樂天主義を以て消光して居る人もありますが、是等の人々は例外の人でありまして普通一般に物事を辨へる者ならば、必らず世には罪惡の根底の深きものなる事、特に己自身に邪念邪慾の充滿して居る事を悟らずには居られません。昔より高潔なる人格の人は此罪惡を認めて長嘆し、己を其濁流より救はんと煩悶した人が多くあります。そこで基督が此世に生れ給ひしは、此罪惡を一掃して、神の御心の天に成る如く地にも行はる樣になさんとの思召に外ありません、斯く申しますと又姉妹方の中には、「それでも世の中が別に淸潔にもならず、人々が愈々罪惡に沈淪するではありませんか」との疑問を發せらるでありませうが、是は未だ基督の光が現世に充分隅々迄行き渡つて居ない時代である事を表はしてあります。黎明には東向の部屋が明るくなつても西向は未だ夜半の思のする事があります。眞晝に至つて始めて各部屋が同じく明るくなる樣な譯で、基督の救に與る所丈與る人々は確かに此美くしき慕はしき光に浴して居ります。畢竟傳道は此光に皆浴する樣を互に奬勵し合ふ樣なものであります。斯くいへば又疑問が起るかも知れません。即ち若し太陽の樣に自然に基督の光が照るならば勉めずとも皆其光に浴するに相違がない、其故に其時の來るを待ちませう、何も急いで今と云つて信仰しなくとも宜しいではありませんかと、とはれるかも知れません。是は又他の譬を取らなければなりません。若し夜が明けても、家の戶も窓も皆締め切りにして居たり、又盲人であれば、如何に太陽が赫々と燒き付ける樣に

照り輝やきましても、家の中は夜中で御座います。私共の邊には基督の光が眩き迄ゝ輝いて居ります。即ち基督の事を學ぶ機會もあり、教ふる教師もあり讀むべき書物もあり、聞くべき講話もあり、信仰せる美しき友人もあり、信仰を進めんと努力する友人も數多くありましても、一向無頓着で聽きたくも見たくも努めたくも知りたくもないと、恰も日光の三猿の如く、善い事でも見ず聞かず言はずと云ふが如き有様ならば、到底基督教が理解らう筈なく、此人は失明したか又は殊更日中戸を閉ぢて太陽の光を遮ぎつて、中を暗くして置き、哲學とか修養とかの小さき行燈を點して、齷齪と勉めて勞する樣な人であります。是で基督が世を照らし給ふと云ふ意味が幾分お譯りになつたかと思ひます。

次に基督が照らさるゝと如何になりませうか。彼を信仰するは凡て善事の原因であります。第一、罪の赦を得たと云ふ信仰を得、新なる生命を與へらるるのであります。誰でも良く知つて居る事は、日光浴程良き消毒は他にない事であります。如何なる藥で消毒するよりも太陽に晒らすに越す事はありません。是と同樣に、罪ある私共が基督に逢つて照らされる外に罪を消毒さる、道は御座いません。それで眞に基督を信仰せば、病人が壯健者となる樣に、惡を喜び人を妬み恨み誹り己が日常生活に對し不平不滿に充ち虛禮虛榮を以て上品と誤解し、自我的にして薄情に、物質的肉慾的にして靈性的に枯死せる人々が、新生命を受け、神を愛し人を愛し、己が責任を思ひ、善を喜び惡を憎み、悲む者と共に悲み、悅ぶ者と共に悅ぶ如き眞の同情が、溢々として湧き出づる樣になります。即ち之を眞生命と云ふのでありますが眞に當然の事ではあります。是が基督を信ずるに依り得る處の恩惠であり、力であります。

今一つ太陽に就て申して見ると夜中に隱れて居た汚物、或は人目に觸れざりし塵芥が、日光に依つて隱し得ず現はれ、又目下に朦朧として美くしき姿に見えし物影、又其反對に怖ろしく映じた物形が、日

光に依りて其の眞質が瞭然と分り、其故白晝に怪物の出づる話は御座いません。又白晝醜行を顯はし晒す物も普通には御座いません。是等は皆暗黑、薄暗き處を喜ぶものであります。斯の如く基督を信ずるに依り、罪は罪として明はれ、美德の如くに裝はれた事も、其本質なる醜骸を現はし、又卑しき恐るべきものと誤解せられた事柄も、基督に依つて却つて今世人の認め得ざりし尊き眞價を示すものとなるのであります。此故に神を信仰せざりし時に普通一般の道德を行ひて滿足せしものも、基督を信仰して、此前の道德標準の低かりし事を恥ぢ、又不幸と思ひし困難辛苦も、基督を信じてより却つて之が祝福なりし事を悟るに至る事が往々御座います。故に私共喜びにもあれ、悲しみにもあれ、吉兆禍福共に皆基督の御前に出して其眞價を認めたいものであります。實に基督降誕は世界一般個人各自にとり最も感謝すべき最も祝ふべき吉事で御座います。只外見の御祭騷ぎに類似したる祝をなして降誕祭を迎へず、衷心感謝と敬虔の念を以て祝すべきであります。求道さるゝ姉妹方には益々基督の救の意義を會得せられ心よりして左の讃美を歌はるゝ日の一日も早く來らん事を切に希望致します。

讃美歌第五十九（約三ノ十七節）

【一】

あさひは昇りて　世を照らせり
くらきにすむひと　來たりあふげ
智慧にとみたる主　よにいでたり
おろかなるひとは　來たりまなべ

【二】

ちからにみつる主　よにのぞめり
かよわきひと〴〵　來たりたのめ
やすきをたまふ主　世にくだれり
くるしめるひとは　來たりうけよ

渡米婦人は成功しつゝありや（其二）

河井道子

前號の本誌上には渡米せる同胞婦人の田舍生活の概略を載せましたが本號には市邑の小商人又は勞働者に嫁せる同胞女子の日常生活に就て少しく述べて見たいと存じます。

此種の婦人は田舍生活の婦人と比較致しましても大同小異で格別に是といふ目立ちたる差も御座いませんが、强て相異の點を擧げますならば、田舍に生活せる者よりも世間を知り又敎育も稍あるかと思はれます。勿論彼等の中にも立派な敎育ある女子もありますし、又日本に於ても相當なる地位ありし婦人が仲介人の口車に乘り、或は自身の洋行したき野心より、實際以上の事を豫想し、寫眞結婚にて渡米して後、夫たる人の以外にも無敎育無財產に驚き、不愉快なる家庭を持つて居る人もあります。或市に高等敎育を受けた本邦女子が靴直しに嫁して居るのがあります。之は最初の紹介に此男子は靴製造會社を所有するとの誇大なる報告を信じて渡米し、行つて見れば製造會社などとは大なる虛僞で、僅に小さき店に靴直しを爲し居る人であつて、眞に氣の毒だと近隣の人も批評して居たのを聞いた事があります。其他植木商にして、財產も相當にあり有望なる人物なりといへるを信じ、日本に於ける相當の地位を捨てゝ嫁せし婦人が、其男子の普通の庭師に過ぎずして、米人の家に一ヶ月七八十弗にて奉公なし居る者

なるを知り、終に破鏡の悲を見るに至りたる婦人もあります。此種の實例は數多くして枚擧に遑ありません。斯の如く無暗と寫眞や手紙に依つて、別に其の人柄も身元も調べずして萬里の波濤を越えて渡米する婦人は大膽と申しませうか、無鐵砲、不注意、輕卒と申ましようか、實に恐ろしい事で御座います。

一寸月七八十弗の收入と聞けば之を日本貨に換算して百四五十圓の收入故、其算用にて考へ之れなれば女中の一人も使へるし、家も一軒立派に構へ、物見遊山は思ひのまゝ、剩へ米國の文明の空氣に觸れて向上する餘暇も充分に得らるゝならんなど、夢想兵衞の跡を追ひて、浮か／＼渡米する女子があるは悲むべき事であります。先づ第一に日本と米國との生活の程度を考へねばなりません。從て其の生活費を考へねばなりません。彼地で七八十弗は勞働者の收入で然も上級の方ではありません。一日三弗位の日給を取る勞働者は數多くあるのであります。其故其收入で一軒は愚か部屋住をしても、二間或は三間を借受けるなどは思ひも依らぬ事であります。それが如何して女中など雇ふ事が出來ませう。女中と申しても食事を給して一ヶ月廿弗は極めて安い方であります。此等を考へても萬事萬端入費の多い事は察するに難くはありません。今七八十弗位の收入者の生活狀態を申上げて見ませう。

市内の下宿屋の一室を借り其一室に大寢臺一臺、椅子は場所に從ひて二三脚より四五脚。机食臺兼用の卓子を中央に、隅に瓦斯ストーブと、其傍に小さき流しありて玆にて臺所一切の用を辨じ、必要なる食器は邊りの棚に仕舞ひ、殘りは寢臺の下に入れ置く位が普通であります。其故餘程家政に慣れた經濟の上手な婦人でも、此部屋に住みて凡てを整然と片付けて心地よき家庭の空氣を作ることは誠に困難な事であります。況して年若く無經驗で經濟に慣れざる婦人がこんな所で如何で良妻賢母の實を擧ぐる事が出來ませう。若し夫なる人の勤むる先方の都合で市外に住まつても差支なき塲合には、收入が左程に

なくとも、小さき一軒家を借りていける事もあります。是は結構な事で、成るべく妻女等が裏店住より道德上危險多き下宿屋の部屋住を變へて、不便でも一軒を借り受ける樣に致す方が精神上にも功果が多く家庭の和合を增し、延ひては物質上にも經濟になるのは當然の事であります。

扨、下宿屋の部屋住が道德上危險が多いと申しましたのは如何なる事かと申せば、第一隱場所のない事であります。若し夫なり妻なりが病氣に罹つた場合に、或は休息の必要ある時に、友人が訪問したならば同じ室へ請ずる外ありません。人は親子夫婦の如き親しき間柄にても、時には獨り居るべき必要、又居りたい時が御座います。然るに少しも其設備がなければ、如何しても、之が爲め身體及び精神に惡影響を及ぼす樣になります。斯る所で養育さるゝ小兒等は不幸な者と申すべきであります。空氣も惡しく、入浴も意の如くなすを得ず、稍成長すれば運動の餘地なく、行儀を習ふべき機會もなく、下宿屋の廊下が彼等に取つての唯一の遊戲場であります。若き母は狹き一室に家事に忙はしく、父は終日他出せるが爲め彼等は全く放棄されて居る次第であります

次に若き妻又は若き母の立場より申せば、此部屋住は誘惑の場所といふも差支ありますまい。茲に一夫婦があると致します。其妻が夫と不和の生じた場合に、或は寫眞結婚にて其夫なる人に失望せる場合に、之を目掛けて誘惑せんとする日本人の無賴漢が必ず其婦人を誘惑致します。夫は終日他出し、妻は寢室客室臺所兼用の一室に居りて、不快などにて休息せる場合に、若し假に男子の來客ありとするも彼女は直に其部屋に訪問者を請じませう。客室なれば訪問客の入るも不思議はありませんが、然し寢室とすれば之は許す事の出來ない事であります。茲に若し男子の方より種々同情がましき事や保護慰藉の如き事を申出で屢々夫の不在中に其の婦人一人を訪問するとならば、如何なる罪惡の生ぜんとも計られません。よし又何等の不貞操が演ぜられないとして

も、西洋室は日本室と異なり錠の掛かる装置故、壁及板戸にて他より内部を窺ふに由なければ、同宿の部屋住の人々より悪批評を免かるゝ事は難いのであります。之が爲め何も世間知らずの若き婦人が惡意なくして訪問せし男子との悪評を受ける事も、畢竟部屋住の弊害より生ずるのであります。啻に男子が女子の一人を斯く訪問するに止まらず輕躁なる婦人が男子をそれと同樣に訪問して往々間違を生じ、或は誤解せられた場合もあります。何も訪問其の事が罪悪だと申すのではありません。病人を慰め、愁嘆に沈める友を勵まし助けるのは爲すべきの道であります。然し部屋住みの人は誘惑に陥るの機會、罪悪を犯すべき場合が多いのであります。之が市邑に住む人に往々起る慘事であります。

凡そ夫婦共稼は決して田舍生活にのみと限りません。市邑に於ても夫は庭師、厨夫、小使、又は旅館の部屋掃除人等なれば、其妻は子供がない人は女中、給仕人等に雇はれます。或男子は家庭を形づくる爲めに妻を迎へたのでなく、妻に金を儲けさせる積で呼び寄せたのだと公言した人さへもあると聞きました。それで良き家庭を形作らうと高潔な希望に滿たされて來た婦人が、上陸するや否、翌日から奉公に遣られたといふのも珍らしくない話であります。夫婦共稼は別に惡い事では元よりありませんが、夫婦たる以上は家庭を第一の主眼と爲すべきでありまして金儲が主眼となつては恐るべき事であります。若し生活難の爲め斯く共稼が必要であると、米人にでも聞かせたら、それこそ排日問題に油を注ぐやうなものであります。如何となれば一男子が日本より妻を迎へ、或は妻女を呼び寄せる場合には、其の人自身に彼等を養護する丈けの資力があるといふ證明書を日本人會や領事館から貰ふのであります故、若し結婚早々生活難などの辯解を致しますと、反つて領事館や日本人會が信用を失ふに至ります。夫婦は勿論共稼が必要でありませう。けれども此の共稼といふ意味を二人共家を外にして金を儲けるといふ意味に

使はないで、男女各自其責任を全ふする意味に於て共に働くといふ意義に致し度いものであります。

以上は幾分か消極的の部分を述べましたが、勿論そんなものばかりではありません。市内で小さな生活をしながらも實に敬服すべき家庭も御座います。僅かな收入の幾部分でも貯蓄し、經濟を守り、吝嗇に流れず、新聞雜誌などをも充分購讀して、世の進歩に伴ひ、子女に瀟洒とした服裝をさせ、幼稚園や學校に通學させて、人に愧づる處なく、正々堂々と善事の爲めに協力して居る人は確かに大成功をした人々で、斯のやうな日本人の家庭も時々あります。米國は富の國とは云へ、何れの人種でも本人の人物さへ堅固なれば用ひらるゝのであります。又豐かなる國故、人格さへ備はつて居る人なれば必ず生活の道が開け、今日に困るなどの愁嘆はあり得べき處ではありません。其上勞働を日本の樣に輕蔑する國柄ではありませんから、正しき事なれば如何なる事を仕樣と立派なものであります。又人も狹き批評など致しませぬ。此等の事より考へて見ると排日問題などの起る原因となる事情は種々ありませうが、要するに先立つものは人格問題でありませう人格を無視して居る者が、只金儲を主眼として勞働して居るとすれば、如何にしても輕蔑は免れないのであります。讀者中若し今、寫眞結婚などに依つて渡米さるゝ人あらば、第一に先方の人物、品格、身許などを委しく丁寧に調査さるゝ事が大必要であります。一概に米國行きを思ひ立ち輕薄なる噂を信用し、又己が野心より無暗なる空想を懷きて渡米さるゝならば、必ず後悔さるゝ日が參りませう。何卒眞面目な獻身的な心を以て、何處に行くも日本婦人の美德を失はず之に加ふるに外國の優勝なる要點を見逃さずして之に倣ひ、何處にありても他人の尊敬を受くるに足る人格を日々涵養さるゝ事をお薦め致します。是には眞の神を信じて其の信仰を進めらるゝが近道です。

横濱市本町通り六丁目八十四番地基督教女子青年會は此度新に渡米婦人講習所を設置し必要な科目を教授し親切に色々の事を紹介致します御志望の方は三錢郵便切手を封入して御申越しあらば委しく御返事致す事になつて居ります。

宗教教育の必要

女子高等師範學校教授　大江スミ子

私の考へて居ります宗教教育とは如何なるものであるかといふ定義から先に申上て見ますと宗教教育は神の御性格思召をよく教へこみ、神様を一生涯の手本とし相談相手として强き誠の精神を以て世に處する樣に教育する。之が即ち宗教教育であると思ひます。神様を一生涯の手本とし相談相手とすれば如何なる結果がありませうか。第一謙遜の德を養成する事が出來ます。第二に强き誠の精神を以て境遇を支配する樣にする事が出來ます。

第一、如何にして謙遜となるかといふに、即高き者を手本とするが故に到底慢心が起り樣がないのであります。例へば背の高き人と並んで歩めば低き自分は高く見えないのと同樣に限りなく高き者を標準とするが故に威張る事が出來ません。若し信者にして傲慢な人がありましたならば其人は神と共に居ない人であります。自分の心の狀態を神の前に隠す處なく赤裸々に打ち明けて見るに實に汚れに滿ちて居て誠に愧かしい。神の正義なるに比べては我々は實に汚に滿て居つてとても慢心處の沙汰ではないのであります。保羅の如き高德なる人でさへ「アヽ我なやめる人なるかな」と嘆息するに至つたのは常に神と共に居て神の性格と比べて居たからであります。如何に私共が淸きが如く思ひましても神に比べては汚れて居て見るに堪へないのであります。傲慢なる人には偉大なる仕事は出來ません。彼の扇の的を射た那須の與市は、決して傲慢な態度であの後世まで

も傳はる大手柄を表はしたのではありません。當時の與市の心理狀態を觀察して見ると非常に謙遜な態度で之を爲して居ります。最初扇の的を射るは誰にしようかとの議が起りました時先第一に選ばれたのは與市の兄であります。之を以て見ると必ずしも弓矢の名手は與市に限らないで他にも與市と同樣の技を有する人があつた事が察せられます。此兄は腕に傷をうけて居ました故此大役を弟與市に讓つた。與市は再三辭退の後終に之を承諾し「飛鳥をも射落す我が技倆竿頭に掛たる扇如き如何事かあるべき」などゝて傲慢不遜な態度を以て之を射たのではなくして其心中には一心に「弓矢八幡大菩薩別しては下野の氏守神彼の扇を首尾よく射落さしめ給へ」と念じつゝ若し失敗に終りし其時には只一死あるのみと心に固く決して居たのであつた。與市は扇の的に向かつて始めて弓矢八幡大菩薩や或は氏神樣を急に思ひ出したのではなく恐らくは幼少の頃より其守護神に就ては母の教化を受けて居たものと思はれます。

第二に神を信仰すると强き誠の精神を以て事に當り自然境遇を支配するに至ります。我々は神の前に僞を云ふ事が出來ません。神の前に出る度數が重なるに從ひて自ら誠の心が强固となるのであります。宗教教育を放たれては此强き誠の精心を養ふ事が困難であります。如何なる境遇に於ても困難に遭遇し迷路に踏み入りし時にも强き誠實なる心を以て一身の處置に就き全き判斷を下すに至るのであります。

今日に於て日本の領土は益々擴張せられて殖民地が漸次增加するのであります。殖民地に住む人は內地に住む人と比べては自由でありませうし內地に於て爲し難き事をも彼地に於ては平氣で爲す事もあるかも知れませぬが强き誠の精神ある人は何處に行き如何なる誘惑に遭遇しても强き誠心にて判斷して事をなし之に打ち勝つ事が出來るのであります。

凡事の善惡は其結果より寧ろ其動機如何に依つて定まるものであります。楠正成が湊川で討死をした其事が忠義で後世に殘る世の鑑となつたのでなくし

て正成が強き誠の心にて判斷してなしたる事柄であるから其精神が後世の人をも動かす行爲となつたのであります。二宮尊德が家貧しくして其夜蚊帳を得るに由なく徹宵其母の蚊を追ひたりといふ其事實が親孝行の手本であるといふのではなくしてあの夜金次郎があの場合強き誠の心にて判斷し、これが自分のなすべき最上の事と思ひてなした事であるから其誠の動機が後世の手本となつたのであります。富貴にして蚊帳を持てる者は如何にして親孝行をなさんかなどといふ奇問につき考へて見ても只其尊德の誠の精神が人の鑑となつたのである事がわかります。我々は兒童をして此強き誠の精神を以て事に當り世に處する樣に宗敎教育を施すのであります。宗敎教育の主眼は玆であります。敎育者なる者は宜しく自己の人格を高め神を恐れて玆に着眼せねばなりません。先年私は或る華族の家を訪問致しました、其主人は幼少の頃より英國に於て敎育され劍橋大學を卒業した人でありました、私に向かつて「敎育者たる者は須く私の學校の校長の如き人でなければならない」と云つて次の如く語られました。其校長はグラッドストン同時代の人であつて、非常に頭腦明晰グラッドストンと並稱せられた程の人で從つて生徒間の信用も厚かつたのであります。其校長は異鄕に在る自分を殊の外親切に指導して吳れました。然るに自分は幼少の頃より非常に煙草を好み隙さへあれば隱れて喫烟して居た。或日曜日の午後自分は獨り校庭に出で垣根の陰にて切りに煙草の烟を吐いて居ました、誰見る人もあるまいと思ひきや獨り靜かに散步して居られた校長に見付けられました、其時校長は何事も言はずに通り過ぎた。自分は大層良心にとがめられ、よせばよかつた、あゝわるかつた／＼と心苦しさに堪へず今呼ばれるか叱られるか／＼と安き心地は致しませんでした。然し又常に敬愛する其先生の許に呼ばるゝのは何とも云へぬ嬉しい樣な心持ちで只嬉しいと云ふ樣な感じが致しました。敎育家たる者は此恐嬉しいと思はれる樣でなければならな

い。案の如くに校長は程經て自分を呼びました、如何に叱責せらるゝならんと恐る〳〵其前に出でゝ頭を垂れると校長は常の如く親切に而もにこやかに、「神樣の前には僞はないでせうね」と言葉柔しく云はれた。其時自分は恰かも電氣にでも打たれた樣に心の奥底までビリ〳〵と戰慄きました、其時の事を回顧して見ると今でも戰くのであります。自分は其以來プッツリと喫煙を止めて仕舞ました、その先生の心もちではもう私からなんともいはぬともう自分でわるかつたと充分神樣の前に悔いて居るから神樣の前にはうそはありますまいねと只念ををしただけでよいと思はれて只其生徒の良心の判斷にまかせなすつたのであまり多くいはれなかつたのであります。私共基督の畫などを見ると其頭に御光が輝いて居るのを見ます。眞に高徳なる人の頭には御光が輝いて居て人の心の奥まで照らすものと思はれます」といはれました。實に此人の言の通り人を敎育する人は第一に其人格が高尚でなければならぬのは言を俟ちませぬ、植村先生の御說敎に基督の學校と云ふ事がありました基督は常に其弟子達の目の付け處を敎へ給ふた即神の方へ向ける樣に敎育された、また神樣流儀又其氣分にしやう〳〵とつとめられました

生徒を宗敎的に指導するには其任に當つて居る宗敎家に俟たねばなりません。其方が効果が多いのであります。然らば我々の爲すべき事は何であるかと申しますに生徒の宗敎心の芽を摘み取らぬ樣にする事であります。或地方に於ては小兒等の日曜學校に行く事を妨げるといふ事を聞きます、之は大なる間違でありまして斯かるを宗敎心の芽を摘み取るといふのであります、日曜學校に於て知らず〳〵神の存在を知り他日社會に出で困難に遂遇する時に其昔神に就て學びし事を思ひ出し非常なる慰安を得淸き誠の心を以て此世を渡る事が出來る樣になります。此宗敎心の芽を摘まぬ樣に心掛け標準を茲に付けしむる樣にするのが我々敎育家の務で淸き誠の心を以て支配するに至らしむる爲めに宗敎敎育は洋の東西を問はず各國に於て極めて必要なる事であります。

清き目とあしき目

松宮彌平

路加傳十一章三十四節以下を讀んで見ると、

身の光は目なり、爾の目明ならば全身明く、其の目あしからば爾の身も暗し、故に爾に在る光の暗からぬやう愼めよ、若し爾の全身光明にして暗き所なくば燈の輝きて爾を照す如く全く光明なるべし。

とあります。此の聖語の意味は別にむづかしい意味ではなく、誰にでも了解し得られる手近い所から例を引いて説明された眞理であります。しかし此の聖語に就て更に深く研究して見ますと、唯一と通り讀んだよりも一層深い意味と教訓が含まれて居ることを知るのであります。

茲に「明るい目」と「あしき目」とありますが、其の語に就て調べて見ると、原語の意味では「明るい目」といふのは「清い目」といふ方が適當であつて、私慾私情のないこと。又「あしき目」といふのは其の反對で私慾私情の強いことであると申します。私はその意味からして此の聖語に就て、キリストの仰せられた御心を考へて見ますと、「身の光は目である、凡そ目が明であるならば全身が明るいやうに、私共は清い目＝私慾私情のないもの＝であれば、全心身の明るいものになれる。若しそれに反して、あしき目＝私慾私情の強いもの＝であれば目のあしきものの全身が暗いやうに、私共も亦全心全社會が暗闇となつてしまふ。故に我々は常に全心全社會が光明であるために、自分の内に在る光が暗くならないやうに、即ち私慾私情が跋扈せないやうに注意せねばならぬ。そして自分の内に在る光の輝があれば、燈

が輝き渡つて居れば、暗黒の部分がないやうに、全く光明の天地に生活することが出來る」といふ意味であると思はれます。

凡そ人が罪を犯して悲しい、痛ましい境遇に陥ることは或る意味から言へば誘惑に負ける、そして墮落することであるに相違ありませんけれども、それは何時も此のキリストの仰せられた目のあしき時に受ける人生の打撃であります。自我心が強くて私慾私情の烈しく働いて居る時であります。そして其のやうな時は私共が最も疑惧し、最も憂慮し、最も煩悶する時であつて、一口にいへば暗黒の時代であります。光明のない境遇であります。

御承知の通り舊約書を讀んで見ますと、ダビデ大王はユダヤ隆興の明君であつて、しかも神が「我が心に適ふ人」と仰せられた程の信仰の高い君主でありました。ダビデの生涯は實に古今の皇帝や王者とは違つて、斷えず神に信賴し神に服從し所謂信仰的生涯を送つたことでありましたが、此のやうな信仰の人ダビデにして、猶ほ拭ふべからざる程の罪惡を犯したので御座います。即ち其の臣ウリヤの妻に懸想して、罪もなきウリヤを殺害して其の妻を奪ふたので御座いました。どうしてダビデの如き篤信の人であつて、なほ且其のやうな罪惡を敢てするに至つたのでありませうか、實に通常の考からは推測し難いやうに思はれるのであります。言ふまでもなくそれはダビデが下劣な慾情のために捉はれた結果に相違ありませんけれども、抑もダビデが其の順潮な運命に得意になつて成功に驕る慢心が出て來て、中心の光明を掩ふやうになつて居たのに原因することを看過してはならないので御座います。

一體、外部に現はれる罪惡の起る以前には早かれ遲かれ必ず内心の墮落、即ち心の光明が消えて暗黒になつて居るのであります。ダビデにしても矢張り同じ事でありました。即ちダビデは斯る痛ましい罪惡に陥る前以に於て、例へば神の誡によつて國王たるものは妾を蓄へてはならぬと禁ぜられて居るにも

拘らず、多くの妾を蓄へて居たとか、又はアンモン人との戰爭に元帥として出陣すべきでありながら、其の任務を輕じ却て都に止つて偸安に耽つて出征しなかつたとかいふやうな事實がありました。是等の事實は思ふにダビデが大罪に陷る伏因であつて、貞操を堅固に守ることが出來ずして、蓄妾などの不德を行ふて平氣で居るといふやうな所には、既に其の臣を殺して其の妻を納れる如き大罪惡にまで進んで行くトンネルが通じて居るので御座います。そしてダビデが勵精努力の精神が衰へて、護國の道を輕視し、自然我儘になつて來て、しかも慾情の擒になつて居たやうなことは、明に暗雲がダビデの心の上に蔽ひかゝつて來て居ることを想見することが出來ると思ひます、斯くて心の光明が益〻薄くなり弱くなり微になつて終に言ふも忌はしい悲劇を演出するに至つたことはダビデの其の當時に於ける平生を考へて見る時に、寧ろ當然の行掛りといはねばならないやうに感ずるのであります。實にキリストの御言葉にある「光の暗からぬやう愼めよ」との一言は、私共が世に處し身を持する上に於て如何に大切な訓誡であるかを思はずには居られません。

偖、此の「身の光は目なり」又「爾にある光」とある其の「光」といふのは何を指したものでありませうか。

もとよりいろ〱の解釋もありませうが、私は此の「光」といふのは「識別力」或は「判斷力」であると云たいので御座います。私共が物の善惡良否を見分るのは目の力によります。その如く私共が世に處し身を持する上に於ても各自の前に横はれる思想信仰行爲に對して、其の善惡正邪を明確に辯別する識別判斷の力が大切なので御座います。その力は取りも直さず私共が世に處し身を持する上に於ての光となるのであります。故に墮落とか犯罪とかいふやうなことによつて人生の破壞される一面を見ると、勿論色々の誘因となるものがありますけれども、更に他の一面を考へて見ると、此の識別力が薄弱乃至無力に

なつて、或る思想、或る信仰、或る行爲に對し、明に識別し確に判斷を下して、其の最善なるものに就くことの出來ない場合に起ることが多いのであります。言葉を換へていふならば、假令識別することはあるとしても、或は利己主義のために私慾のために將た私情のために、其の敏活な働を沮止され、無力な狀態に化して恰も目の光を失つて全身が暗黑となつて居ると同じやうな狀態になるからで御座います。

昨年東京監獄で處刑された青年死刑囚がありました。それは相當の敎育も受け、相當の思慮もある有望の青年であつて、郷黨の間に信用され模範青年とまで呼ばれたものであつたさうであります。それがどうして死刑に處せられるやうな大罪を犯したかと申しますと全く放蕩に身を持ち崩すやうになつた結果でありました。其の青年が何かの機で一度遊里に足を蹈み込んでからは、模範青年が忽ち放蕩遊惰の青年と化してしまつたのであります。此の場合に其の青年の心に立ち入つて考へて見れば、最初遊里に足を入るゝが如きことは極めて忌むべく愼しむべきことといふ識別は明に出來たに相違ないのでありますけれども、悲しいかな、最早鋭敏な識別力は一種の劣情の爲めに蔽はれて、之に打ち勝ち得る力を失つて居たので御座います。一旦蹈み迷つた邪の路は迷ひ込めば迷ひ込むほど深入りして、終に正道に引き返す道を失つてしまふやうになります。かうなつて來ると酒色に惑溺する劣情と、其の劣情を滿足せしめたいと思ふ慾望とが、心身の全體に蟠つて、所謂光明を失つた「あしき目」になつてしまつて、其の手段も方法も擇ぶ遑なく、事の善惡正否を顧慮する思慮もなく、盲目的になつて、終に遊蕩費に窮した果は人を欺き誘ふて大金を持ち出させて、途中に要擊し殺害して其の金を奪取し、死骸は側の桑畑の中へ埋めて置いたといふ慘劇をやつたのでありました。實に恐るべきことであります。自我の慾情のために心の光明を掩はれ、識別力が不確になつて來る結果の恐るべきは實にかやうなものであります。

此のやうな大罪を犯すことは稀有の事實でありますけれども、世には之れと同じ徑路に在る事實は少くないのでありまして、聖書の中にも此の例として申上げてよいと思ふ事實がいくつかあります。例へばヨハネとヤコブの母がキリストの許へ行つて「爾榮を得ん時此の二人の我が子を一人は爾の右に一人は爾の左に坐することを命ぜよ」と願つたことが記してあります。其の時にイエスは何とお答へになつたかと申しますと、早速其の願をお許しになつたのではなくて、却て二弟子と其の母を戒めて「爾曹は求ふ所を知らず、爾曹我が飲む所の杯を飲み、我が受くる所のバプテスマを受け得るや」と仰せられました。私は此の「求ふ所を知らず」と仰せられたキリストの御一言は二人の弟子と其の母が、前後輕重を識別する力の缺けて居るのに氣付かない事を戒められたやうに思はれるので御座います。蓋し此の二弟子の母が自分の子の立身出世を希ふたことは、世の母親の情の常として、當然であつたとする事か出來るかも知れませんけれども。キリストの精神と其の將來の立場とを考へて見たならば、唯其の子の立身出世を希ふ一種の慾情が先に立つて、爲に中心の光明を掩はれて居たものといふ事が明に認められるのであります。そして其の二弟子と其の母は求むる事の適否を識別し得ざる所にまで至つたので御座います。

又聖書を讀んで見ると、ペテロの蹉跌の事が記してあります。ペテロはキリストの最愛の弟子であつただけに、キリストを懷ふ情が深くてキリストの最期までも見屆けたいと、健氣にも唯一人、祭司の長の法廷に引かれて行くキリストの後を慕ふて、法廷の庭へまで忍びこんで行つたのであります。然るに彼は下婢の咎に逢つて其の答ふる所を誤り「我はイエスを知らず」といつたのであります。ペテロには豫て明確な識別力があつたに相違ありません。獄にまでも死にまでもキリストに從つて離れまいといふ覺悟があり、又自分の立つべき道を選ぶだけの判斷

も出來たに相違ありませんけれども祭司の長の法廷の庭に於ては、全く其の言ふべきことを誤つてしまつたのでありました。そして其の胸に千秋拭ひ去ることの出來ない悔恨の痛を深く刻み込むことになつたのでありました。

僅に此の二三の例のみではありません。其の事に大小輕重があつて、其の事實の現はれて來る形こそ違ひますけれども、時の古今を問はず凡そ慾情のために、我儘のために、虚榮のために、名譽心のために或は境遇の壓迫のために、事態の前後を誤り、選擇を間違へ、再び取り返しのつかぬ有樣に墜ち行くものは、此の廣い天下には蓋し幾人あるか分らないので御座います。そして其れが出發點は事に臨み物に對して正確な判斷が出來ず、識別する力の薄弱乃至無力によつて誤る所に一致するのは悉く然りであります。夫れ、私共の前には常に採るべきものと、採るべからざるものとの二つのものが横はつて居ります。又私共は何時も左せんか、將た右せんか、其の岐路の叉點に立つて居るものであります。能くこれを識別し且判斷するでなければ、採るべからざるものを採り、行くべからざる道に行くやうになるは當然の事であります。神と財に兼ね事へることは出來ません。必ず其の何れかを選擇せねばならないことは極り切つて居ります。私共の識別力が敏活でなければ自然其の選擇力がありません。嘗てキリストに來つて「我限りなき生命を嗣ぐために何をなすべき乎」と質問した富める青年が、キリストから「爾その所有を悉く售つて貧しき者に施せ、然らば天に於て財あらん、而して來り十字架を操つて我に從へ」と聞いた時に、其の富めるが故に、即ち大なる產業を有するものであつた爲めに、哀しみ憂へて去つたとあります。此の富める青年は生命に入る道の何れに在るかをキリストの仰によつて了解したに相違ありません。けれども其の識別力は一種の慾情のために掩はれて光を失つて居ました。即ち富に離れたくない彼の慾情は、永遠の生命に入る道に向ふことを

教へられても、其の方向を選擇することを逡巡せしめて斷乎たる決心が出來なかつたのでありました。嗚呼人生此の富める青年と同じ立場に居らないものが幾人ありませうか。そして此の富める青年に反して、採るべき事に臨み、行くべき道に向つて、猶ほ私情や自我心や我儘や虚榮などのために、其の識別の力を鈍ぶらさないで斷乎として正善の道に進み得るものが果して幾人あるでせうか。

私は再び申上げたいと思ひます。眞にキリストの仰せられました「光の暗からぬやう愼めよ」との訓誡は決して偶然ではありませんことを。

故人を紀念するの途

河井道子

故人を追悼するとて種々なる集會を催し饗應等をするのは普通の事でありますが殊に佛教信徒の家では七年忌十三年忌などゝて盛大なる法事を致し其日を守る事が慣例で御座います、之は美しい事では御座いますが何等意味なき饗應などは反つて故人に對し不敬になる場合か多いではありますまいか。

或熱心なる佛教信者の婦人が其幼時を述懐されて非常に慨嘆されたる時の御話に祖父君の何年忌かの大法事に聽者には何等意味なき讀經の物騒がしく儀式果てゝの後は僧侶等を始め親族友人等相集まりて飲み食ひの大騒ぎ酒酣なるにつれて無遠慮になり擧も荒はに動作の不作法や暴飲暴食の醜態は全く故人を追想敬慕するの意味は露だになく、恰かも醉狂の沙汰にして幼心にも熟々と御法事はいやなものであるとの深き印象を腦裡に刻み付けられたとの事です基督者と雖も故人追悼會や紀念會は致しますが其は唯に生前の知人友人遺族と相會しまして共に故人を偲び神の攝理を相語り相互に信仰を奬勵し神と故人との靈に對して尚一層生甲斐ある生涯を送らんと誓ふもので御座います然し或家庭では單に靜かに追悼

會を催して故人を追懷するに止まらずして廣く慈善を行ひ他を裨益して故人の紀念と致す事も御座います、之は實に美擧であると思ひます、譬へば手近い御話は興業銀行の總裁志立氏及同夫人(本會委員)は逝かれし御令孃を紀念して莫大の金額を救世軍に寄附せられし如き又岡見惠子夫人(本會副會長)が先年只一人の御愛孃の永逝に遭遇され紀念として本會及他の學校へ寄金せられたる事等は美しき紀念の仕方であると思ひます。近頃信者未信者を問はず斯る紀念や法事をさるゝのは悅ぶべき事であります。曾て某米人の寡婦が病身にも拘はらず日本に於て敎鞭を執り幼き子女を養育して居たさうです。當時同僚の日本婦人達が同情を以て此婦人を助けられしが終に此人は病死したのであります。然るに今日に於ては米國にて此人の子女は皆、殊に長男は成功して立派になつて居るさうですが先年英學塾の津田塾長が渡米の際長男の人が亡き母の生前日本の友人達に厚情に預りたるを忘れず母の紀念として日本女子教育に宛てん爲英學塾に多大の寄附があつたとは塾長が一同に物語られし一節であります。斯かる例は實に數多くして一々枚擧に遑ありません。

又彼の有名なる加洲のスタンドホード大學の如きは一人息子を失はれたる夫妻の其紀念として創立せられたるもので御座います。即巨萬の富を只一人の子息に殘さんと致しましたに不幸にも其夭死に遇ひ世の常の如き愁嘆絕望に陷る事なく一大學を創立し我が愛子の代りとして有爲の青年の幾千人を教育せんとの逕健なる芳志と敬慕すべき義俠心より出でたる大紀念碑であります。而も同大學にて、立派なる人物が年々養成され其中には日本の男子も加はつて居ります特に苦學生の如きは如何計か其處にて補助せられ訓練せられて其恩惠に浴して居る事で御座いませう實に數知れぬ事であります。人は失望の深淵に陷り或は悲哀の怒濤が打寄て來りました時に此等に打勝ち愉快なる生涯に入らんとするには己の利益幸福如何を顧ずして全力を以て他に盡し他を助導し

て始めて勝利を得る事が出來るのであります。私共の中に親に別かれし人兄弟姉妹朋友に先立たれし者孤獨の淋しみに悲しんで居る者なども少なくないと思ひます斯る場合には徒に只昔を忍び他を羨むが如き普通一般の愁嘆をせずして普通以上の決心を以て其悲に打勝ち度と思ひます。之を爲すには只己を忘れ他の爲めに力に應じ否或場合には力以上に働くより他に方法は御座いませぬ。

今回齋藤トラ子夫人(東京女子青年會々員)は舅君なる齋藤永頼氏(英學者齋藤秀三郎氏嚴父)の永眠第十三年忌紀念として煩雜なる饗應及物品贈與などの習慣を打破し郷里仙臺市に於て傳道講演會を開催せられました第一回は公衆一般の爲めとしての演說會にして第二回は婦人の爲めの最も有益なる會合で御座いました。斯くて主客共に喜悅に滿ち靈的饗應を共にせられしは信者として實に美しき御催で御座いました。

今後信者の家庭にては益々古風なる法事的煩雜を省き餘裕あらば傳道集會などを各所にて開かるゝ等の事あらば故人に對する敬愛の情を厚からしめ又生者に救の道を示すなど之に越す催は御座いますまいと思ふのであります、私共敬愛る人々の命日は例へ大なる集會は不可能なりとも小さき家庭集會などを開き相互の信仰を增進し暖むるなどの事は最も有益なる事にして私共の決して忽にしてはならぬ事と思ひます。

交戰國の面影(下)

あい子

▼伊國停車場の貴賓室

今度は伊國の停車場の有樣であります。貴賓室だとて、御遠慮には及びません。恐れずにお入りなさい。此貴賓室は皇室より慈善事業の爲め使用する樣に貸し置かれたるもので御座います。移住民保護者

は敵國より再び伊太利に追ひ返された移民家族の使用にあてる爲めに部屋々々を貸し與へられました。旅行して垢に塗れし婦人等の四五人の子供を携へ、或者は十二三人も連れて、飢餓に迫りつゝ、恐怖に戰き、夜露を凌ぐ家もなく、此處の隅、彼處の隅に群集して居ります。彼は柔和な言葉に慰められ只一杯の熱きスープ、コーヒーにも沈んだ心を幾分か引立たせられます。此等の親切は罹難者をして「神は其なくてならぬものを備へ給はん」との御言葉を信じさせ又其信仰に依りて不安な將來を元氣で迎へさせると思ひます。

▼露國に於ける貴婦人の看護振●●●●●●●●●

病院の光景を窺はずしては私共の描寫は完全しません。今日交戰國に於て何處の市邑と雖も病院のない處は一つもありません。私共は露西亞に參りましたが宮殿の宏壯なる客室が斯樣な珍らしい事の爲めに使用されて居るのを見て驚きの眼を見張りました此の室に居らるゝ柔和な顏をした一看護婦は歐洲に於て最高貴の稱名を持たるゝ御方の一人で御座います。然し彼女は如何に下劣な事でも不愉快な仕事でも決して斥けられず國家や妻子の爲めに苦戰して負傷した其軍人等の苦痛を些少でも減せん爲めには何事をも厭はぬとの赤心よりの看護をして居られますこれは只に此國のみならず何の國に於ても之と同樣の事は屢見聞される事で御座います。貴婦人も鑛夫の妻も即ち妃殿下も農夫の妻も全で基督の崇高なる教訓「それ人の子の來るは人を使ふ爲めにあらず人に使はれん爲めなり」との格言を實行して居ます

▼夫の戰死に悲しみ崩れた印度婦人●●●●●●●●●

まあー、此部屋の空氣は何と惡い事でせう。薫強き花葫、香、汚物などの混合して一種云ふべからざる臭氣を發し一度嗅いだだけでも終生忘れる事の出來ない程の惡臭であります。室内の片隅の堆積の中に悶え號泣して居るのは何者でありませう。是は或印度婦人が其夫の死を悲しんで居るのであります。此婦人の許へ帝國の爲め恐ろしい急流を渡つて戰つ

たといふ勇敢な其夫の名が戰死者、行衛不明者の名簿の中にあると云ふ報知が屆いたのでありました。彼女の無教育な心は悲痛と恐怖に閉ざゝれて仕舞ました。此年月彼女は吉報を待ちに待つて居て、自分は字が讀めぬので、僅に近隣の人からの微なる報知で日を送つて居りましたが、今待ちに待つて得た便りは、全く待ちたくなかつた凶報で、彼女は全く悲哀と恐怖に失神した樣になつて仕舞ました、彼女は何事も理解する事が出來ず、神々に祈りはすれど、神々は其悲痛に對して何等お答がない樣に思はれ、「世に希望はなく神も佛も此世に在し給はぬか」と只嘆くより外に爲す事はないので御座います。彼女に向かつて慰藉となり同情を以て愛なる神の子の存在に就て語つてやる人はないのでせうか彼女は其儘寂しく死の陰に過ぎ行かねばならぬものでせうか。

▼神の國と其義しきを求めよ●●●●●●●●

平和な國に住む婦女等は如何に幸福なる事でありませう。其平和の爲めに神に感謝して然るべきです而して又戰爭が教へる教訓を心にとめねばなりません。其教訓とは開戰前に於て私共の生活に瀰漫して居りました所の私共の生命を亡ぼす不注意、我儘、逸樂慾といふが如きものが戰爭に依つて一掃されたといふ事です。嚴格なる教師の教へる聊の容赦もなき懲誡は苦痛を含みますが、然し私共は涙の眼にも尙神の眼の中に愛の光が輝いて居るのを見ます。神が私共を嚴しき訓練にて鍛へ給ふは神の試練するに甲斐ある者と思召し給ふが故でありまして、丁度黃金が火炎に鍛へらるゝと同樣に交戰の國々は淸められ新しき勝れし好き方法にも神の御旨を果さん爲めに準備として懲めを受けて居るのであります。姉妹方よ貴方達の生活狀態を反省し嚴格なる自制を努め贅澤、利己主義、逸樂、情慾等の習慣より脫し全き自由なる奉仕に身命を捧げ高遠なる理想と高尙なる希望を同胞に鼓吹し他邦人の神を忘れ己が野心の奴隷となりしより罰として當然の結果として受けたる苦き經驗の前轍を踏まざる樣に注意して下さいませ。

「汝等先づ神の國と其正義とを求めよ」とは國民も個人も共に守るべき標語とせねばなりません。人若し己が位置權力富貴等を神の光榮と人類の幸福の爲めに用ひん決心あらば神は漸次其適當と認め給ふ人々に之を與へ給ふのであります。

英國の婦人巡査

近時英國に於いて婦人の職業が益々増加しつゝある中で最も各方面に好評を得て居るのは婦人巡査であります。一廉の官吏として其職に應ずる者もありますが、自ら志願して巡査になる婦人の方が多數であります。扨彼等の仕事は如何なる種類のものであるかといへば之を五種に分類する事が出來ます。

（一）巡　察

（二）警察署出仕

（三）家宅捜索

（四）調　査

（五）公開場の取締

であります。

先づ婦人巡査が巡察するには二人連で正服着用といふ服裝であります。倫敦では街路、田園、往來は固より、大きな停車場は絶えず巡察され、特に旅館酒屋には格別の注意を拂つて、屢々其處に出入する若き娘達を呼び出しては訓誡を與へて居ります。又音樂會、活動寫眞、舞踏會等の公會場、或は反對に人通り稀なる通路、橋上等を巡廻して、婦人及び兒童の危險、誘惑を防ぐに努めて居ります。街上の喧嘩や、醉人の亂暴は、正服着用の女子警官によつて靜穩に鎭められ、しかも誰よりの反抗もなく、又自分にも何等の煩らふ事なくして、凡て平和に致す事は、彼等の一種の力であります。昨今軍用列車發着の烈しい折柄、彼等の多大な助力に對しては鐵道院當局者も感謝して居ります。ゼペリン入冠の際にも英國東海岸或は倫敦市に居る市民の恐慌を防ぐに女子警官の力に待つた事は、其の事實を目撃した人

の皆驚かされたことであります。
警察署に事務を取る女子警官は規則正しく勤務して婦人及び兒童に關する事件を法廷で訊問する事は彼等の義務の一つであります。
又家宅搜索は婦人巡査の働の中で大いに重要な部分であり、又好果を得て居ります。多くの犯罪事件は未だ公に長官に發表されぬ先に、女子警官の適當な處分により公平に取消される場合もあります。其判斷處置の公平なるには、文武官凡ての方面より要求されて居ります。そして數名の長官は此働は男子よりも女子の任務であると主張して居ります。
女子警官の調査は主に女子に關する事件の證據を得ん爲めであつて、特に社會の注意人物を調べる事が第一の仕事であります。凡で女子は女子、男子は男子に同性互に同情し、又性質も互に了解し易いものでありますから男子巡査は男子犯罪人を調査し、婦人巡査は女子犯罪人を調査する事は大いに必要な事であります。殊に嚴めしい權幕の男子よりも優しい同性の婦人巡査が女子犯罪人を訊問するのは、餘程の利益がある事は信じて疑ひません、それで少女或は婦人にて初めて法律上の罪を犯した輕い犯罪人の處分は皆此の婦人巡査に委ねられてあります。
終りに婦人巡査の助力にまつて居る所は公開場であります。活動寫眞館、舞踏場、芝居等の娯樂場は若き婦人少女に對する誘惑の巣であつて、是非其等を取締る必要があります。婦人巡査は男子より細かき處に目を止め、注意が行屆くので、不良少年少女を取扱ふに最も適つて居ります。凡て教育ある婦人巡査は比較的少ないのですが、矢張り相當の教育を受けて其上宗教心のある婦人巡査は、方々に於て役に立ち從つて要求も夥しいのであります。

加奈陀の新生涯

阪本花代

中國の繪の樣な美しい海岸に暢氣に生活致し居り

し此身も思ひがけもなく又楽しい面白い學生々活を繰り返す事になり候八月廿七日の朝いよ〳〵晩香坡の地を踏み汽車に乗り東へ〳〵と進み、途中ルイーズ湖とバンフとに寄りてロッキー山脈の名所を探りながら二日間休養致し九月二日キチナー市に着し東京女子青年會幹事ミス、カフマンの御家族の方々の溫かい歓迎を受け、廿二日迄逗留致し、その朝當地に參り候、キチナーに逗留中は隨分方々より御招待を受け、又五日よりミス、カフマンと大呑様と私と三人で買物やらこれから御厄介になる御方々を訪問など致して過し候、ミス、カフマンの御足が餘りよくないのにミセス、デクソンの處やミス、アデソンの處へと方々へ御連れ下され實にお氣の毒に思ひ候十三日より十四日にかけては自動車にてミス、カフマンと御兩親様と弟様と牧師様と私とでバフアロー市に參り、行きも歸りもナイヤガラの瀧をよく〳〵見物致候。一ケ月と立たぬ間に色々の處を見、面白い色々の經驗を味ひ候キチナーの日曜學校には驚き入り候御老人の御方も生徒恰度三日の日曜日に日曜學校にと御案内受けしも日本服でとの事生憎大鞄到着せざりし爲め着物なく芝居でもする様な大騒ぎ致し、大呑様はミス、カフマンの縮緬の御紋付を、私は牧師さんの御嬢さんの十五六才の女の子の着る銘仙の着物を拜借致し、派手なそれ相應な帯をしめて參り、プラットフオームに上らされ御挨拶をなし、何か日本から來た事故御話をとの事、準備せざりし爲、只挨拶丈け致し、若い生徒の御顔計り見て「若いお方々に御目に掛つて嬉しい皆様の御身體ののび行く如く精神的にも常に日曜學校に來らるゝ事に依つてのび行き發達する樣に望む」といふ事を述べ、後より大人も日曜學校の生徒だと云ふ事を聞いて吃驚致し候。先づこれが第一の失敗にて候。五日當地に參りし節直に加奈陀女子青年會主事ミス、サンダースに御目にかゝり色々御話致し候。夕食を一緒に戴き宿迄御送り下されてお別れ致す時には、熱心に私共の爲めに御祈りをして下され何時も同氏に會ふ度に美

しい刺戟を與へられ候。先週の金曜日より日曜日までヴィクトリヤ、カレーヂの女子青年會の會議開かれ土曜日の夜、ミス、サンダースにもミス、ハミルにも御目に掛り候。ミス。ハミルと色々先生の御話致し候修養會に列せられし生徒の御方々よりもよく河井先生の御噂を承り候。昨日の午後三時カングリゲーション、ホールの大講堂でフォークナー總長の御演說有之候。一昨年迄一杯なりし大講堂は男學生の從軍する者多き爲め寂しくなり、五月よりこの方、戰死せし人負傷せし人々の名を一々讀み上げ實に氣の毒に思ひ候。演說は解らぬ處もありしかど、戰時なる故に一しほ勉强せよ、此戰亂以來日本の東大、京大の生徒教授等は非常なる研究心を持つてよく研究せりと賞められ候。然し日本の學生は悉く筆記して蓄音器の如き點もある云々の批評も加へられ候。この節を聽きし時日本人たる私は熱心に聞き少々冷々致し候、日本は小いものと思ひの外世界の日本なる事を熟々感じ申候。殊に當校では私は始めての日本女子、ぐづ〳〵致し居られず一生懸命に勉强致す積りにて候。今日より講義始まり申候。私は一年の物理、化學、二年の家政學、生化學と聖書と四科目をとり候。頭腦の働き鈍き私が理科的の事を學ぶ事にて候まゝ嘸むづかしき事ならとん祈りつゝ勉め勵まば必ず成し遂げ得らるゝ事と信じ申候。支那の方も一人居らるゝ事故、必ず東洋人二人を比較される事隨分責任重く候。アンスリーホールは隨分大い寄宿舍にて、舍監のミス、アデソンは實に立派な方、食事の際の御祈、夕食後の御祈り實に美しく、信仰と高い人格の溢れて斯る美しい御祈りも捧げ得らるゝ事と敬慕の念、一しほ增し行き、二年間此の寄宿舍に居る間に、此のつまらぬ身にも美しい感化を受け度と思ひ居り候。鄉里に一人の母を殘し乍ら常に神に依れる我れ等は遠く離れ居るとは少しも思はず、常に神の御導きにより各々與へられし務を果したくと祈居り候。母は「二年間お前を兵士に出すのだ」と申し居り候。眞に私は神の兵士となつて世に出で

居る、斯る美しい惠まれし境遇に居るこの身が故國の御方々にも當地の御方々にもつまづきとならず、神と共に在りて信仰の愈增し行くと共に鍛へらるゝ樣祈り居り候。何卒皆樣の御祈りの端に御加へ下され度く候。私は一人の部屋にて日當もよく便利もよい處に置かれて、凡ての事感謝いたし候。寄宿舍の横の廣い運動場は義勇兵の敎練場となり居り候。

日光紀行

井上ちとせ

雲間より時々洩出づる日の光に望を托しつゝ、午前十時過に上野からミス、スノーと日光行列車の一隅に身を置きました。各々小手荷物一個。そしてミス、スノーは寫眞機を肩から掛けられた誠に身輕な旅裝でした。

汽車は凡て緑で彩られた關東平野を北へ〳〵と進んで行きました數日前から東京見物に忙はしく日光の事に就ては車中で調べる事としましたが、騷しい都の有樣に疲れた眼にはこの廣大な景色が何とも云へない慰藉の感を與へましたので、二人とも膝の上に本を擴げたまゝ外を眺めて居りました。ミス、スノーは御國の畑の事などを考へらるゝ事でせう、時々この野菜は國にもある、あれも等と語られました。おいしいお辨當もいたゞいて三時過日光驛に着きました。

先づ目についたのは天を摩する杉並木でした。鬱々と茂つた其葉づれのさゝやきは幾百年の閲歷を語つて居ります。日光ホテルからの自動車で日光町の向はづれのホテルまで行き其處で一休して人力車に乘換へ中禪寺湖へと向ひました。馬返まで二里近くの道は平坦で淸らかな小川が兩側に流れて居ります。夕餉の仕度でせう。米磨ぐ人、菜洗ふ人々で小川の邊は賑はつて居りました。馬返の宿につき澁茶に渇を醫し再び車上の人となりました。これから先の道は餘程爪先上りになつて來ました。旅人に幸あれと祈る幸橋を私共も此旅に惠あれかしと祈りつゝ渡りました。次の深澤橋は其の名の通り雲が其高嶺を掠むるやうな崖下を水は岩に激し飛沫岸を洗ひ、又所々は何とも云へない美しい水色を湛へつゝ靜かに流れて居ります。般若方等の瀧の邊に達した時には太陽は西の山に沒し、邊は柔かな夕靄に包まれました。折しも粗朶を付けた十頭ばかりの馬が赤い韁に菅笠の裝面白い少女にひかれて下りて來ました。時も所もよく調和して歌にも詩にも亦繪にも好材料と思ひました。ミス、スノーも非常に興ぜられて、日の光さへあれば寫眞機におさめられるものをと云はれました。靄はだん〳〵深い霧となり中の茶屋邊から、終に雨となり、又日もとつぷりと暮れて仕舞ました。次第々々に遠ざかり行く水の音を聞きつゝ葛折の道を登つて行きました。暫くして雨にぬれた雜木林の間から一つ二つ三つ、だん〳〵火の光が見え初めました。あゝ中禪寺湖は近づきました。暗に於て光を見出した時の嬉しさを本當に感じました。

湖に渡せる橋をわたり其の名にたがはぬレークサイドホテルに着きましたのは七時頃でした。凡ての設備が外國向でホテルの人々も

皆英語を使ひます。一寸變な感じが致しました。けれども日本室の設備もあるとの事、ミス、スノーのお望みのまゝに凡てを日本式にする事にし、案内されたのは二十疊もあらう、大きな立派な日本室でした。夕飯も日本の御膳立、御箸の持ち方から召上り方の御上手なのには驚きました。けれども何でも私の爲る通りに眞似されるのには少々閉口致しました。彼此する間に九時も過ぎましたので、各日記を認め、静かな小波の音を耳に日本式の寢床に入りました。

✿　✿　✿　✿

まあ、昨夕の雨は名殘だにもとゞめません。男體山は紫にかすみ湖は小波さへ立たず水鳥が五六羽心地よげに浮て居ります。心ゆくばかりの感謝と祈を捧げて直ぐ湖畔を漫歩致しました。一先づ朝飯に歸り又歌が濱邊まで行きました。水底も見えるやうに澄み切つた水に、向岸の未だすつかり覺め切らぬ山々の姿や、其下に朝餉の煙の棚引く様のくつきりと浮んで居る景色の美しさ何とも形容が出來ません。田舎娘や老爺に老婆や、二荒神社の鳥居など數葉の寫眞を撮り、九時頃名殘惜き湖畔を後に歸路に就きました。

先づ華嚴の瀧に立寄りました。忽ち淙々たる聲に氣をおどらせ車夫の後を木の根の階を下りて、瀧の眞向から見ました。峰々谿々に鳴り渡る譚、數十丈の崖を落ち來る瀑の力の壯大、絶觀、特に水煙の中に天の浮橋のかけられた美、實に云ひ出す言葉もなく暫くは我を忘れて立て居りました。

昨夕來し道の朝景色を賞しつゝ、半は歩き半は車で日光ホテルに還りました。先づ通されたのは表庭に面してヴェランダのある西洋室で取敢へず食堂に洋食の晝飯を濟まして社殿拝觀に出掛ました。

陽明門を始め唐門や其他の殿宇に施された、天人、賢人、仙人等より花鳥に至るまでの木地彫、浮彫、又は紫州の名木の寄木細工等其結構の精美壯麗な事は今更申すにも及びません。たゞに日本内地のみならず朝鮮、琉球は愚か和蘭の如き遠き國より奉納せられた品々を見る毎に、徳川家の威力の如何に盛んであつたかゞ偲ばれます。

夕飯後はタテイングをしながら、米國や英國に於ける方言について御話をうかゞひましてから床につきました。明くれば二十二日草木の上の繁き露は今日の好天氣を祝して居ります。朝食後霧降の瀧へ出掛けました。一里餘小道は或は谷の端、或は森の中或は小川の邊或は澤、或は畑の中と云ふ様に變化に富むで居りました。森の中には何とも知れぬ鳥が、怪しい聲で鳴いて居ります。これが亦ミスノーに米國の森林を深く思ひ起させました。お父様が花が好きたと云はれて御土産にと美しい優しい花を澤山にお摘みになりましたこの小道傳ひに上り詰めた所から二丁ほど嶮坂を下つた處での風景が一番好いとの事で其處まで行きました。瀧は華嚴の如くに直下しないで遥か川上から十數丈も降りたるかと思ふ所で、大きな岩に觸れて又た十二三丈の一段の瀧となつて落ちる所は實に美しい眺めです。名殘はつきませんが時間に急がれて元來し道をホテルに歸りました。

見飽きぬ日光に別れを告げたのは一時少し前でした、今市驛への杉並木の日光街道は老杉欝蒼として晝尚暗い様な木の下道を進んで行きますに杉の香が身にしむ様に覺えました。それに此朝は　天皇皇后兩陛下の還御とて並木の間に彼方此方五六軒づゝ散在せる家々に日の丸の旗が掲げられ平和な氣分が漲つて居りました。

王の友達

あい子

今日は降誕節であります。特殊な此の一日を平日と引分ける時の鐘。塔上の時計は今正に十二時を告げました。宮殿では階上階下殘る隈もなく晝を欺く大燭光に映い計り照り輝いては居りますけれど深き靜寂に四邊は森閑として塵音一つ聞えません、舎人や侍從等は足音を忍びながら彫刻のある大理石の階段を靜かに上りつ下りつして居ります。綾羅錦繡に身を飾つた宮内官等は聲低く咡を交しながら、右に往き左に往く其踏む足音も東洋製の厚き絨氈の上では何の響も立ちません。廻廊に奉仕せる女官等は敢て聲立つる者もなく只恐懼して時に忍び音に笑ふ官人等の身振に貰ひ笑ひを洩らすのみであります。國内の有らゆる名醫等は低き聲で語り合ひながら圖書室に參集しました。大膳所では庖厨長は大饗宴の準備に忙はしく、厨夫等は無言の儘で立働いて居ます。

街路は好奇心に滿たされた群集で雜沓して居ります。何心なく宮城前を通過した彼等の目には金絲に光る禮服に羽毛の付いた三角帽を被つた多數の宮人と其後部に鋭き銃劍を捧げて整列せる護衞兵等の嚴めしい光景が何か異常事が起つた事を告知して居る樣に見えました。

寺院では聖餐式が準備され、大蠟燭は煌々と點されました。

若き王の臨終は迫つたのであります！。

人民等は皆王樣を尊敬致して居りました。彼は其智識及境遇から考へて見ると善良な帝王でありましたが、然し彼には一人の友も御座いまんでした。

價知れない錦の帳を垂れ廻らした寢室に、彼の祖先等が誕生され、又崩御された、其白銀と薔薇色の繻子で飾つた黄金の寢臺の上に、王は靜かに眼を閉ぢて横はつて居ります。其顏は頭をのせた柔かき

レースの枕覆の布よりも白い。彼の枕邊には罪障消滅を告げた僧侶と看護婦の外には誰も奉仕して居る者はありません。唯寢室に續く次の室に廿五人の屈强な護衛兵が警衛して居るのみです。

彼等は王は眠つて居ると思つて居ます。

やがて扉口の方に絹ずれの音がして早手廻しな黑の喪服姿に騷がしく鼻鳴らす二疋の狆と恐懼に慄く六人の侍女を隨へて、王妃が靜々と入つて參りました。彼女は寢臺の傍に近寄りました。王は眼を見開いて微笑みました。彼女ははつきりとした然も氷の樣な冷淡な口調で申しました。

「侍醫等は最早望みの糸も切れ果てし御命は旦夕に迫れる由を私に告げ申した故、御別れの辭を申上げに參りました」

と稀代の金剛石や映く光るトッパス、水の血滴と見まごふルビーで飾つた手を差延べました。

彼は病苦に惱める身の漸々と王妃の手を彼の唇に當てゝ、

「さらば、マダム、ラー、レエーンよ、さらば」

とかすかに申しました。

彼女は涙一滴こぼしません。彼女は少しも彼を愛しては居りませんでした。

傲然と構へた落付かない狆と護衛等の微笑の眼をし侍女等を隨へて王妃は最敬禮して整列する兵士の列の間を靜々と引返しました。

王が疲れた眼を懶げに再び閉ぢました時に二滴の涙の露は其病める頰に灑ぎ掛りました。

再び彼等は王は眠つたものと思ひました。

然し彼の心は人に愛された記憶に苦き少年時代の追想に耽つたのでありました。

・　・　・　・

五才の春を迎へた幼王は宮園に出で國内の貴族中より選ばれた遊び相手と共に餘念なく遊んで居ました。何心なく幼心の歡喜より投げた王の球はあらぬ方向に飛んで一人の遊び相手に當りました。痛苦といふよりも寧ろ疳癪からのけたゝましい大

聲で泣き叫びながら微傷を負ふた子は遊戲の監督に當つて居た老公爵の許に馳せ行きました。幼王は後來の爲めとて嚴しく戒められました。それ以來、

『王様は友達を持つ事は出來ない。』

といつて遊び相手はもう來なくなつて仕舞ました。

かうして幼王は日と共に冥想的な物柔しい沈鬱な子供に生立ちました。彼は君主であり帝王の王子でありながら、常に友情と愛とに饑餲して居りました。

彼は母后を見る毎に其膝に甘へたいと思はぬ事はありませんでした。けれども宮廷の嚴酷な規定はそれさへも彼に許しませんでした。

彼は屢々頭を頂垂れて幽寂な木下蔭などに逃れ、母后や幼くして崩御された父王の事を思つては泣きに泣きました。遊戲の間にも何とも云ひ知れぬ悲哀に閉されて、屢々茫然と立ち盡す事もありました。折々彼は貧民の子供等に玩具や菓子などを分與へるを樂と致しました。貧兒等は喜んで下賜品を拜受は致しますが彼を好きとは思ひませんでした。

斯くて幼王は足音毎にも氣を配り、一言毎にも心を用ひ。他の凡ての行爲を推測しつゝ淋しい年月を重ねました。

* * * *

彼は十才となりました時に、外國より遊學にとて參りました。王子等と共に學事にいそしみました。王子等は彼を好まず彼は相も變らず淋しい孤獨でありました。彼の憂鬱は年と共に加はり、心は詩想にのみ傾けられました。彼の唯一の樂は森に往つて靜かな永い瞑想に耽ける事でした。今迄兩親の愛といふものを味はつた事のない彼は、頭上に低く垂れる樹々の小枝や緣に香る木の葉は此冷かな手にも彼を慰めるかと想像しては、云ひ知れぬ平和な氣分に浸されました。

日光の暖い林の空地や水清き湖畔に座して、何の慾望もなく、只瞑想に耽つては梢に吹き渡る風の音を夢の國に奏づる樂の音か、天上の琴の調かと耳傾けて聞き入りました。彼は物を了解し且つ識る事を

學びました。彼の心の琴線には風に搖らめく草木も空にきらめく星影も、水の流れや野山に吠ゆる鳥獸の聲々も、事毎に觸れては美妙な音樂となりました。彼は平和な心地に耳を傾けました。風の便りに吹き送られる此自然の大教訓は彼に取つては宛かも夜の花園に咲く薔薇の一片が吹く風に送られて來る樣に極めて單純な事の樣に思はれました。

微風が吹き止んで彼の足が森に遠い時には、彼は敎育掛から其學事に怠慢であるとの故で嚴く訓誡されます。徒らに形式の末にのみ拘泥して腐敗した宮廷の空氣の中に、彼は補導者の導く道は辿らないで全く離れた彼自身の道を歩みました。此孤獨な王はたつた十才の小兒でありました。侍臣等は『愚かな王』と呼んで居りました。

＊　＊　＊

再び舞臺面は轉じました。彼は自分自身を認識し人生をさとる青年期の其門口、彼は十五才の春を迎へました。彼の日々は學事に費されました。陷媚る者は少なくはなかつたが、友といふ者を持たない彼は、常に寂寞で孤獨でありました。彼は宮殿の中に廷臣等に圍繞されて居る時でも、彼は全く彼等と離れた無關係な人でありました。或日彼が道に逢つた巫女は、彼の手筋や人相をつく〴〵と眺めて申しました。

『王樣の御尊相や御手筋を拜見致しますと何をお求遊ばしてお居でになるかが分かります、王樣のお求め遊ばして居らるゝものは人の愛です、往つて美はしい王女を探して愛人となさいませ。』

王樣は綠に香る橘の枝を手折つて愛人を求めるために快樂の街へと出掛けて行きました。そして傾く月の影に尋ねる人を見出しました。彼女の顏色は花愧づかしき薔薇色で、其眼はゆかりの色のすみれ草の樣でした。森の女神の樣にたわやかに房々とした髮毛は無造作に束ねられて、若い牝虎の皮から刈り取つた毛で作つた獵人の衣の樣に、彼女の肩にゆれかゝつて居りました。

彼は靜かな優しい聲で彼女の愛を求めました。そしていひました。

『若し貴女が私を愛して下さるならば貴女は人民の國母となれるのです、私は貴女計りの友としていつまでも、變らずに、何んでも思ふ儘にして上げます。』

彼女は彼に自分を愛する事は許しましたが彼女が彼の愛に對して報いる事は拒絕致しました。彼女は彼の與へる金銀寶石にのみ心を奪はれて、彼には何の注意をも拂ひませんでした。終に彼女は彼に厭き果てて仕舞ひました。

『王樣は決して人に愛される人ではありません。王樣の詩的思想は私に取つては貧困にせまる小商人の空財布よりも價値のないものです。』

といつて彼を捨てて去りました。

彼は失望悲痛してよろめく樣に森に馳け入りました。梢に鳴る風に向かつて問ひました。

『あゝ何故私は獨りぼつちなんでせう何故私は他の人の樣に人から愛されないのでせうか?』

風も木も答へはなくて只嘆息するのみでありました。そして彼は友のない爲めに哭きました。

『王樣は友を持つ事は不可能です。』

* * * *

彼は今は早廿才となりまして、匂やかな若人と生立ちました。彼は歷代の祖先が油を灑がれ王冠を戴く爲めに跪いた其同じ寺院に於て壯嚴な戴冠式が擧行されて、公に帝王の位に就きました。それから大王の王女が王妃として選ばれて、王家に相應はしい善美を盡した入內式が行はれました。彼は孤獨な暗い生涯が幸福の太陽から發する幾筋かの金色の光線に依つて照らされる事を希ひました。

然し此等の希望の光は無慘にも遮ぎられました。婚禮の夜、夕陽が降り積んだ白雪の上に消えた後に愛の無き妃は、彼に向つて他に愛するものがあるといふ事を告げました。

苦い言葉は宛かも碎けた眞珠の樣に其紅の唇か

ら洩れて彼の心を破りました。破れた心の痛苦に堪へで室を出でました彼は、冴え返る霜の夜を森の方へと行きました。彼は兩手で頭を抱へて只獨深き思ひに沈みました。

梢に吹き渡る風の音は、同じ怨みの樂を奏でゝ只呻くのみであります。

王樣は友を持つ事は到底不可能です。

俄かに棚引く雲の朝は紫に明けはなれました。

降誕祭の朝日の光は深紅の帳を洩れて王の額上に輝きました。彼は目を見開きました。けれどもまだ夢幻の境を迷つてゐる人は尙も空の彼方を見つめて居りました。

やがて數百年の昔初めての基督降誕に羊牧等が歌つた樣な音樂の響が何處ともなく聞えて來ました。手鼓や立琴、笛、喇叭、小鼓や琵琶で囃子立てながら聲を合せて歌つて居ります。

「いと高き所には榮光、榮光神に在れ、地には平和、人には惠あれ。」

寢室の壁や天井は白沙に覆はれた樣に烟が立ち罩めて、得ならぬ香に四邊は薫じてゐりました。錦繡の帳を通して曉の明星の金色の光が輝いて一條の道を作りました。其道の兩側にクリスマスの天使等がかゞやく衣を着て立ちました。やがて其道に輝く白き衣の天女が現はれました。彼女は招待狀を兩手に捧げて申しました。

「王樣！　私は王樣の友達です。御迎へに參りました。さあお出で遊ばせ。」

『あなたは一體何誰です？』

と王は歡喜の色を彼の病み疲れた眼に湛へながら問ひました。

彼女は再び口を開きました、其聲は金鈴を振る樣に美はしく。

『或人は私を死と呼びます、又或人は生命と申します。』

彼女は近寄つて王の手を取りました。

降誕節の朝日が赫々と光榮に滿たされて昇る時に

彼は大理石の樣な美はしい其唇に、幽かな微笑をただよはせながら、夢に狂ふ胡蝶の樣に其解放された靈魂はきらめく星の座を過ぎて、萬人の友、諸王の君主なる大王の許へと飛び去りました。

寢室はいとも靜寂に時々看護婦が啜泣く聲が幽に洩れ聞ゆるのみであります。

『王樣は御崩遊ばされました。』

『靜かに。』

と崩ぜし人の眼をねむらせながら大僧正は申しました。

『王樣は崩御遊ばされました。そは神の御國に生きん爲に。』

仲保者

ブロウニング夫人作
松榮譯

あはれ聖神の高さよ！　我らの歌には
聖神が屈みて聞き玉はん樂あらず
されど聖子が臨終の呻吟ぞ
聖父の耳には響きてあれ。

あはれ聖神の純潔よ！　我らの手は
殺人の色もて赤く、呪咀もて染みたり――
されと聖神はしも聖手をつらぬける罪をば
聖眼より隱さんとて聖手をのばし給ふ。

あはれ聖神の强さよ！　聖神がみ腕の
雷や動かんとて我等は戰慄しつれ――
されど聖主は聖神のみ胸にやどり給へれば
聖神は最愛の聖主を懷き給はざる可らず。

あはれ聖神のめぐみ深さよ！　聖神は聖主をば
とこしへに然か樂しまんとは擇び給はず
復讐の爲には緩め給はざりしその抱擁を
愛のためには棄てもし給ひつれ。

高く、きよく、強く、めぐみ深きみ神よ！
低き、汚れたる、弱き者をばゆるさせ給へ。
我は聖主のみ顔に聖神の光輝をば見出で――
唯其處にのみおのが暗黑を見る。

歌

哀

辻村靖子

われなくて子らの幸ある身ともならば
　老のいのちのをしけくもあらず
いで人はしゞまこあれなこととこいでは
　その人からを人にしれつゝ
人のせはかくこそありけれいつしかと
　まつ日はながくいぬる日ははやし
野死亜亡の墓としるされし無緣
　の碑のほとりにて
いかばかりうらめかりしうきよぞと
　とへと答へず松の嵐ふく
いにしへの流され人もかくばかり
　物思ひけむ今日も雨はれず
美し稻の味しらず島にうまれ
　しまにくち行く老人あはれ

小預言者（四）

横田貞治

何阿西

アモス去つて又來らず、されど神はこゝに預言者ホセアを起こし給ふて、亡び行く北國イスラエルを警醒し給ふた。

ホセアの預言は恐らく紀元前七百四十六年より七百三十四年の間であらう。ヤラベアム二世の繁榮時代の終り頃より其につぐの反亂時代に於て預言したのである。

彼はアモスと異りて北國イスラエル生れの人であつた。

其イスラエルの歴史地理に通じて居る所や、其預言か涙に溢れて母國を思ふの念禁じ難きものあるを

感ぜしむる所あるなどは、其を證して餘りある。
彼の國家と共に其家庭も又悲慘なる歷史であつて彼をして益々多情多感ならしめざるを得なかつた。彼はテブラヰムの娘ゴメルを娶り二男一女を擧ぐ。然かも其は實に妻が不義の子であつた。ゴメルは遂に情人の下に逃れ去つた。ホセアとして悲憤の情忍び難きものがあつたであらう。殊に彼は其不義の妻を愛して居つたからである。彼は再其不義の妻を愛せよとの神命を得て、終にゴメルを代金を以て受戻し之を敎育せんと勸めた。其如何なる結果になりしかは知るに由なきも、此處にホセアは夫としてのエホバと其不義の妻なるイスラエルとの關係に對する暗示を見出だしたのである。

アモスは羊牧であつたがホセアは如何なる種類の人なりしか。祭司なりしと云ふ想像もあるが確でない。然かし彼は都の人と云ふよりも寧ろ鄙の人であつたらしい。其證據として（一）野獸より多の形容を得て居る事（五〇十四、六〇一、十一〇十、十一、十三〇七、八、八〇九、七〇十一、九〇十一、）（二）罠の形容（五〇一、二、七〇十二、九〇八、）（三）田園生活を思はしむる形容數多き事、（四〇十六、十一〇四、十〇十一以下、八〇七、十〇十二以下、九〇一、十三〇三、九〇十、十〇一、十〇四、十二〇十一、十〇四、十〇八、六〇三、十〇十二等。）彼が如何に自然を愛し、己が國土を愛しみ、或は動物に對し深き同情のありし詩人であつたか又知るに難くない。スミス氏は次の樣な事を云つて居る。

『アモスはイスラエルの景色を餘り畫いて居らない而して其描き出す時は、いつも刑罰の稻妻の光の下になさるゝ、乾干地震包圍と云ふ光景の内に都が描出せられ、蝗枯死穀朽腐穗の禍の下に葡萄畑田園などの景色が色彩られ、カルメル其ものも荒癈たるものが或は神の怒を避くる所として顯されて居る。然るにホセアに於ては其愛情が露の如く全國を潤ふし此處に全ガリラヤが光輝ある香ばしきものとして我等の面前に浮び出づる。斯の如きはキリストの比喩

の外に到底見るを得ざる所である。又アモスは神の御業を讃美する時にいつも星を眺むる、ホセアの詩は恰かも腹這へる葡萄蔓の如く其國土に密着して居る。彼が天に訴ふる時はいつも天が地に語り得るの時地は又穀物と酒と油とに應へ、又此等のものはエズレルに應ふるの時である。(二〇廿一、廿二、)云々と。而して獸類に對する愛情については二章十八節などを引用して居る。以上はよくアモスとホセアの性格の相違を示すと云へる。其外ホセアには餘程家庭的の所がある。七章四節以下なとにパンを造るなどに仲々委しい。

彼の文體は簡單にして質朴、而かも力が籠つて居つて感情に滿ちて居る。其文章は斷片的にして不規則、之を括るに甚だ困難である。併しながら其のごつ〳〵したる所に返つて生氣潑溂たる所あるを見るのである。

ホセアの宗教的觀念

アモスの正義の神に對してホセアの神は愛である固よりアモスの神觀にも愛の方面ある如く、ホアセの神觀にも正義方面はある。たゞ前者が神の正義の點に力を强めて語りしに對して、ホセアは其愛の性情を高調したのである。彼はエホバを父と稱しイスラエルを其子等であると云ふ。然かし彼は神とイズラエルとの關係の愛なる事を示す爲めに、それを人間の夫婦關係になぞらへて居る。殊に彼と其不義の妻ゴメルの關係に於て神とイスラエルの關係の暗示を得た。神は實に其不義の妻イスラエルに對して親切を極めて居る。然るに不貞なるイスラエルは情人なるバールの禮拜に趣く。神の正義は之を罰せざるを得ざれど其は決して終局でない。神の愛は終にイスラエルを回復せでは止まないのである。六章四節十一章八節九節等には神の愛の煩悶苦闘を語つて居る。而してホセアがイスラエルの民をエホバに歸らしめんとする時は、いつも神の愛を說いて居る。(六〇一—三、十〇十二、十四〇一以下)。神の神たる所即ち其人間以上たる所は實に其の愛にあるのである

と十一〇九)。

この愛の神に對するの罪惡は、不忠實なる事である。此一つの精神か罪惡の種々なる形となつて顯るゝのである。宗教的には自然禮拜偶像禮拜崇邸祭壇の建設バール（禮拜四〇十二―十四、八〇六、十三〇二）となり、政治的にはアッスリア或は埃及の力に信頼し(五〇十三、七〇十一、十二〇一等)又王を立つるに當りてもエホバの心によらず自負の精神のみ熾んなり(八〇四、十三〇十一)、而して道德的には凡ての社會的罪惡、僞盜殺人壓政飲酒淫行として顯はる。斯く多樣な形は異なれども皆一つの不忠實の心より出づ。此不忠實の心を彼は内在の淫行の靈と稱して居る(四〇十二、五〇四)。これホセアに見る顯著なる思想である。アモスの外部の行爲を云々するに一歩を進めて内なる精神に論及せし所深い所がある。而して此淫行の靈はエホバに對する知識を缺けるより來る。此民は知識なきによりて亡ぶ。(四〇六)ホセアはアモスと同じ樣に宗教的儀式或は供物の如きを非難し祭壇と罪の梯子とまで叫んで居るが、アモスは單に其等が無益であり或は弊害を來らしむるがゆゑに非難したのであるが、ホセアは其に一歩を進めて其等は即ちエホバより離れてバールに使ふる罪の行爲であると云ふのである。神の恩寵を得るに必要なる一事は犧牲献物にあらずして眞の悔改なり即罪を意識し告白し眞の精神的變化を以て神に歸る事を意味す。(十二〇六、十四〇一―三)。

ホセアは又アモスと同じく當初は罪のイスラエルに對して絶望であつたが、神の愛を信ぜし彼は後には希望の預言者と變ずるに至つた。イスラエルはエホバの抵抗し難き愛に打ち敗け、其罪の性格を變へ其不貞の性質を癒さるゝに至るべし(二〇十七、十四〇四）かくホセアはアモスの絶望嚴格の預言に比して希望と喜に滿ちて居る。而して其の神の愛の性格を高調せし所確かにアモスの宗教的觀念の缺を補つて居ると共に、更に一歩宗教的に深い所に達したと云ふべきである。

彙報

○東京基督敎女子青年會

十月廿九日(日)午後三時より本會館にて加藤高子女史司會の下に開館紀念及びバザー感謝祈禱會を催す折柄の雨天に拘らず五十餘名の出席者ありたり。こゝに新館が建設せられてよりすでに一年恵みに溢れたる過ぎし日と共に去る十月十四日開催のバザーの大なる好果を一同心より感謝せり後、此度來朝せられし本部幹事並びに河井渡邊兩女史の紹介ありたり。十一月三日玉川上流調布に遠足會を催す、詳細は次號記事に讓りこゝに略す。

十一月十二日より十八日迄一週間萬國女子青年會祈禱週を守りぬ。

十一月十九日(日)午後三時より祈禱週終る感謝會を開く。出席者は各學校青年會及び他の女學校の女子學生等ありたり。渡邊百合子女史司會の元に植村環女史の『眞の自由』と題して講話あり、當代の腐敗せる思想に對し大いに考ふる所ありき。

十一月二十五日(土)午後二時より新幹事渡邊百合子女史の歡迎親睦會を催す。東京市中の二十有餘の各女學校の女子學生百名の出席ありたり。澤田靜枝、秋谷章子の歡迎の辭の後渡邊女史は米國に於ける面白き最初の學生生活を語られぬ、後無邪氣なる餘興及び快愉なるゲームに一同胸襟を開いて親睦したり。

○新幹事

東京基督敎女子青年會は此度米國インディヤナ州アーラム大學にて五ケ年間御勉學の後去る八月中目出度く歸朝せられし渡邊百合子女史を新幹事として迎ふる事となりぬ女史は特に女子學生部の發展を計らるゝ爲なれば種々の學科及び聖書研究等に志す方は毎日午後遠慮なく面會を求められなば喜んで面會せらるべし。

○河井總幹事

去月より凡そ一ケ月の豫定にて關西地方巡回の途に上られ何れにても非常に歡迎され希望を以て活動中なり本月上旬歸京の筈。

おとづれ

◎「四錢の使途」が記されてありましたので

岡山　葛山喜代

今年は萬國祈禱週一週間唯一人で祈りました學校に居る時よりも時間が十分あつて心行く迄祈れました唯信仰の弱い私の祈でも神樣が御聞き入れ下さつて何だか自分に神の私語を耳に致した樣に思はれました、十一月號の「女子青年界」に「四錢の使途」が記されてありましたので私は四錢でも早く送りたいと存じましたのに色々雜務に追はれ今迄其儘になりましたで茲に金一圓を封入して置きますから其四錢の使途の中に御加へ下さつて有效に御使用下さいませ、少額乍らも私の眞心よりそして兩親より頂いたのでなく私が働いて得た御金で御座います何卒御受取下さい失禮乍ら女子青年會員として一生懸命に働く樣御誓ひ申上げますたゞ私の心の中歡樂と感謝に充ちて居ります。

◎凡ての事感謝すべし

米澤　上野とし子

九月二十八日夕七時二十分しげき露にたわむ小萩と共にひれ伏して神に祈る朝日影靜かにうすれ行く夕「見えざる客」のみ居給ふ室に心ゆく計り青年會の爲め祈ります時の限りなき喜び深き感謝はなきが如き小さい僕に力を與へ命を與へて居ります、心空になるまで友の爲めに祈る毎に友の爲めとて捧げし祈りは我が爲めの如く云ひ知れぬ御力と慰めの中に入れられ我れ友を忘れて我が幸の爲めにのみ祈りしやと自問致す事度々で御座います、かゝる御惠に浴し眞に身にあまる幸に感泣せずに居られません。

如何に基督教に反對の地にても眞に主に活き居る人は不言の中に主の御光を表はし働き得られませう、「常に喜ぶべしへ斷ず祈るべし凡ての事感謝すべし」かゝる生活こそ主につける僕ふさはしきものと祈によりかゝる生活に入り度く努力致して居ります。

去る二十一日午後二時半より準備に最初の大集會を開きました、(他では小の中に入つても)山形よりミード氏來澤致され三十四名計生徒卒業生あつまり思もよらざりし好結果にて感謝致して居ります聖書十冊教文館より求め新潟より求め歸りし五冊と合せて自由に持ち歸りして戴き一冊殘りしのみ、これも嬉しく存じました、御心深くして計り難く事々に感謝にあふれて居ります、聖書の研究も子供等と共に求めに應じて致して居ります昨夜四人で祈會を致しました其時にも今年の夏こそ修養會と一ケ年祈りましたが都合上止むなく歸宅致しました。けれどもまたなしと思ふほど聖い夏を送らせて頂きました一週間老いたる父の手傳やら一心になし日曜日に弟と二人で教會に行く有難さは忘れられません、二里の道も喜びによりてかく感謝とよろこびに對しては暑さも遠路もすべてなくなりまして一度もかくる事なく行かせて戴きました偉大な雄大なる日本海岸にひれ伏して祈りし時えならぬ夕日に恍惚として共に感謝を捧げし事幾度御座いましたでせう、新潟教會牧師長田時行先生の許に心ゆくばかりの時を頂きました事や佛教地最初の集會しかも盛會を開き下されし事が一番嬉しい事で御座います。只今救世軍中尉となりて銀座に働き給ふ逸坂信吾氏の御妹子樣其御甥子樣御二人のもゆる如き御熱心によりて四十名近くも集り先日又二度目の集會開かれしよし神の御惠みの隅なきに感謝致して居ります。

○入會申込者（本部報告）

草地もと子　安東靜子　關根まつ子　弘瀬晴子

○會友會費領收（本部報告）

金壹圓也

笹尾やす子（五ノ一―十二）　今井絹子（同上）

草地もと子（五ノ十―六ノ九）　安東靜子（同上）

關根まつ子（同上）　石原菊子（五ノ九―六ノ八）

湯田きみの（五ノ二―六ノ一）　内田須美（五ノ四―六ノ三）

前川久江（五ノ四―六ノ三）

金壹圓五拾錢也

弘瀬晴子（五ノ十一―六ノ十）

○雜誌「女子青年界」代金領收

金八拾錢也

後藤きん（四ノ十一―五ノ十）　種子田米（五ノ十―六ノ九）

小堀よし（同上）　坂本蕣（五ノ十―六ノ九）

伊藤とう（五ノ十一―六ノ十）　古谷さえ（五ノ十一―六ノ十）

矢野千代（五ノ十一―六ノ十）　鈴木千[illegible]（五ノ十―六ノ十一）

山根妙子（五ノ三―六ノ二）　中野たみ（五ノ五―六ノ四）

金壹圓四拾錢也　芳尾千代（四ノ十―六ノ八）

金壹圓拾四錢也　五味菊（五ノ一―六ノ二）

金四拾貳錢也　鈴木とや（五ノ六―六ノ十）

金貳圓也　織田愛（五ノ一―六ノ九）

金貳圓八拾錢也　原田壽（五年七月分三十四部代）

金壹圓也　河本かめ（五ノ六―六ノ七）

金四圓也　横濱英和青年會（五ノ六―十、五十冊代）

○壹圓五拾錢也　上野さと（四ノ一―五ノ十二）

○金七拾錢也　戸谷清一郎（四ノ十―五ノ九）

片岡京（五ノ六―六ノ四）

○金七拾貳錢也　岩崎うめ（四ノ十一―五ノ十）

○金參拾貳錢也　松井かつ（五ノ八―十一）

○金拾六錢　木戸田捨（五ノ十―十一）

○金參圓拾八錢也　中村玉（五ノ四―五ノ十一）

○金四拾錢也　澄愛女學校（五ノ一―六）

○金壹圓七拾六錢　田丸よね（五ノ五―十一）

●電●話●と●振●替●

日本基督教女子青年會本部

東京市神田區北神保町十四番地

電話　本局五九八番

振替　東京貳參七貳參番

一女子青年界」定價及廣告料

定價郵稅共	內地	海外
一部	金八錢	金拾壹錢
一年前金	八拾錢	金壹圓貳拾錢

廣告料	一回掲載
一行	金參拾錢
四分一頁	金二圓
半頁	三圓五拾錢
全頁	金六圓

年極又は回數により割引有

大正五年十一月廿八日印刷納本
大正五年十二月一日發行

發行所　神田區北神保町十四番地　日本基督教女子青年會

發行兼編輯人　神田區北神保町十四番地　河井道子

印刷人　芝區櫻田和泉町七番地　前川吉次郎

印刷所　芝區櫻田和泉町七番地　三成舍

The new building is most convenient geographically for work for girls going abroad, and already letters have been given to girls for the Y. W. C. A. emigration secretaries at Angel Island. Classes in foreign housekeeping and customs, etc. are offered to all who come. Necessarily the work can be very slight for the majority of girls are in Yokohama only a week or ten days before sailing, so the lectures are planned to be as simple and practical as possible. But girls who wish to come for a month or longer can live in the dormitory either in Japanese or foreign way and take regular class work. Miss Patterson, a new household science teacher of the Tokyo association, will give two days a week to Yokohama also. The association has secured a regular emigration secretary, Miss Ito Yoshida. a graduate of Aoyama Jo Gakuin, who has spent the past ten years in America. Most of her time was spent in Seattle, but she has also been in San Francisco and Los Angeles, so she is conversant with the needs of Japanese girls in those most important places, with which we have our closest touch in this new emigration work.

We are undertaking this emigration work not with an idea of sending girls to America, but of helping those who are already on their way. We ask most earnestly that whenever our readers know of any girl who is planning to go abroad they will put us in touch with her, because we believe that we can help her get ready for her new life, and we can without fail put her into safe hands on her arrival on the other side. Literature is being printed now which can be had by anyone desiring it. There are no charges to any girls except when they live in the dormitory and enter classes in the regular course of a month or more.

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

VOLUME XIV NOVEMBER, 1916 NUMBER 11

The Yokohama Young Women's Christian Association has entered into a new era of its existence. Since its beginnings four years ago it has not had a regular organization, but has been cared for by the National Committee. It has been steadily growing, however, and Miss Baker was looking forward to organization during these fall months, but her sudden return to America prevented her seeing the harvest from her faithful seed-planting. Before she went, however, the temporary committee had several meetings, and had asked the National Committee to be allowed to organize. In the meantime, too, the Association had moved from its small quarters on Main Street into a large brick building at Betenbashi near Sakuragicho, where it has rooms on the first and second floors, and the whole of the third floor. The rooms downstairs are for noon lunch room and general Association room, while the two sections of the third floor are to be used respectively for a dormitory and training rooms for girls about to go to America, and for the secretary's home. Miss Ragan, for the past five years national office secretary of the National Committee, has been appointed Yokohama acting general secretary and is now installed in the new quarters, whose address is 84 Rokuchome, Honchodori. She has room for a few foreigners who wish to come temporarily.

On the 28th of October there was a luncheon to newspaper reporters and a publicity meeting for women's work, held in the new Y. M. C. A. building, with an attendance of five hundred, men in the majority. Dr. Soyeda, Mr. Saburo Shimada, and Miss Kawai were the speakers, and gave most emphasis to the improvement of relations between the United States and Japan, with the necessity for the training of Japanese women as one of its great factors.

The World's Week of Prayer, November 12-19, was a most auspicious time to begin the advance work, when women all over the world were praying together for Japan. Every evening prayermeetings were held, and on the 17th the Association was organized. Although it was a stormy night and not as many people were present as had been expected the meeting was a most interesting one. The constitution was adopted after as much earnest discussion as ever in a meeting of American women, and the new Board of fifteen members was elected. Most of this Board had already been serving as patronesses since the beginning of the work in Yokohama, but two of those chosen are young women in business offices in Yokohama.

The regular classes have been begun again, and new classes are being planned. Especially among the new classes are those in the emigration work.


ピアノ・オルガンは
東京銀座
山野樂器店
電話京橋 一〇五二 二二九八
振替東京 一三五〇五

大正五年十一月廿八日印刷納本大正五年十二月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可

復刻版　女子青年界　第7巻
1992年7月10日発行
本体価格　22,000円

発行者　船橋　治
発行所　不二出版
東京都文京区向丘1-2-12
〒113　☎03(3812)4433
印刷所　三　進　社
製本所　青木製本所
中性紙使用
乱丁・落丁はお取り替えいたします。